北信図書館連絡協議会
職員研修会

修理する前に考える

その修理、その資料にとって本当に必要ですか

平成29年11月9日

県立長野図書館

本日の目的

- 資料の目的に応じて
  修理の必要性と手法の差を理解する

本日の内容

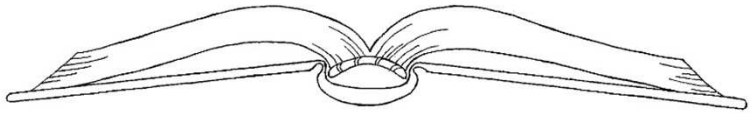
- 本の構造を理解する
- 修理の必要性を考える
- 修理の方法を知る
- 修理の基本を実習する

本日の流れ

- 修理の前に
- 修理の考え方
- 実習（紙と糊の基本）
- 実習（いざ修理）
- 質問タイム

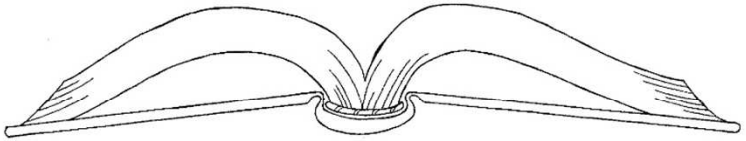
本の構造を理解する

背の開きの種類



ホロ―バック

ハードカバー、丸背上製本など
背表紙と中身の間に空間があり、本を開きやすい。



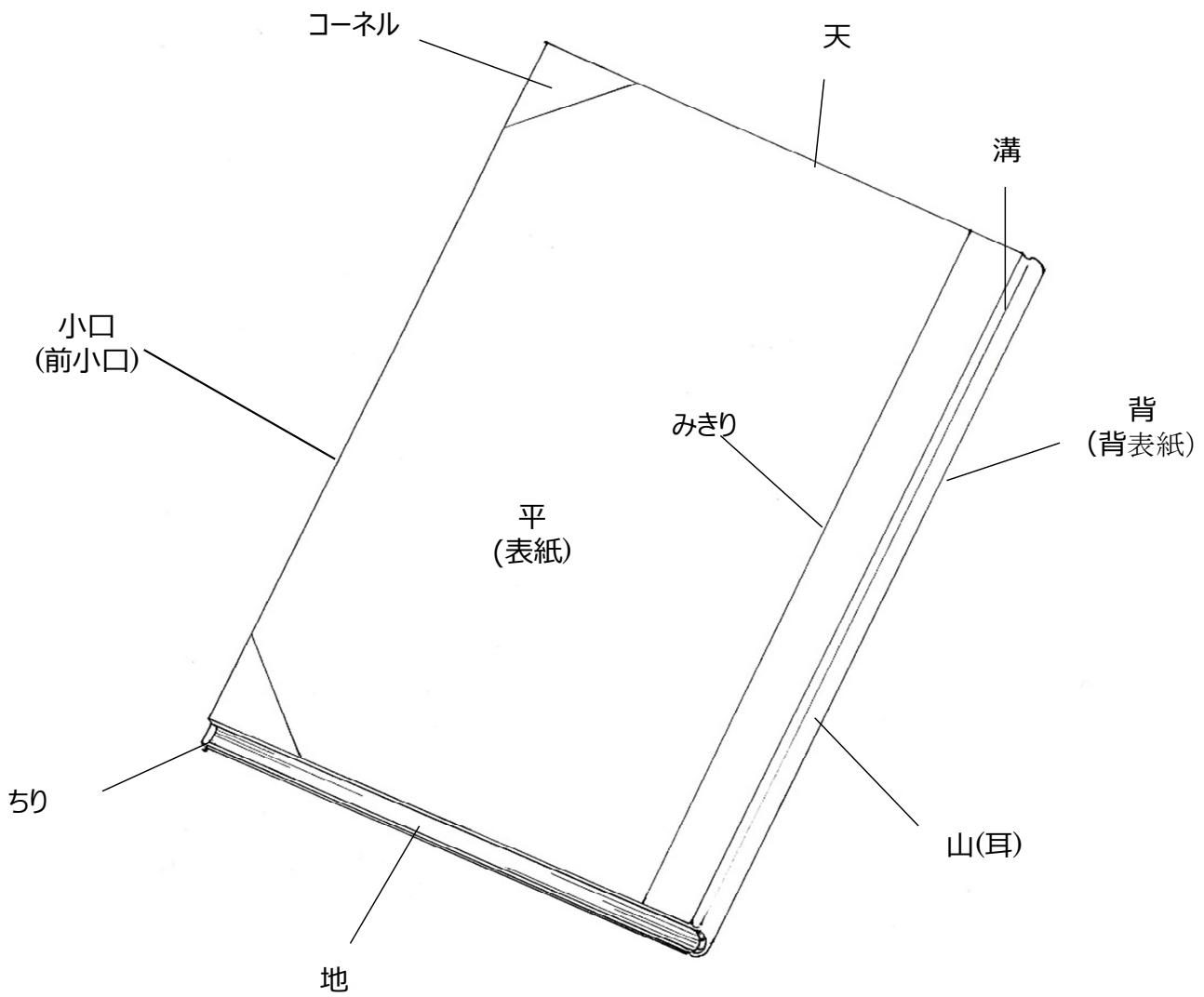
タイトバック

ソフトカバー、無線綴じなど
「のど」の開きが悪い。

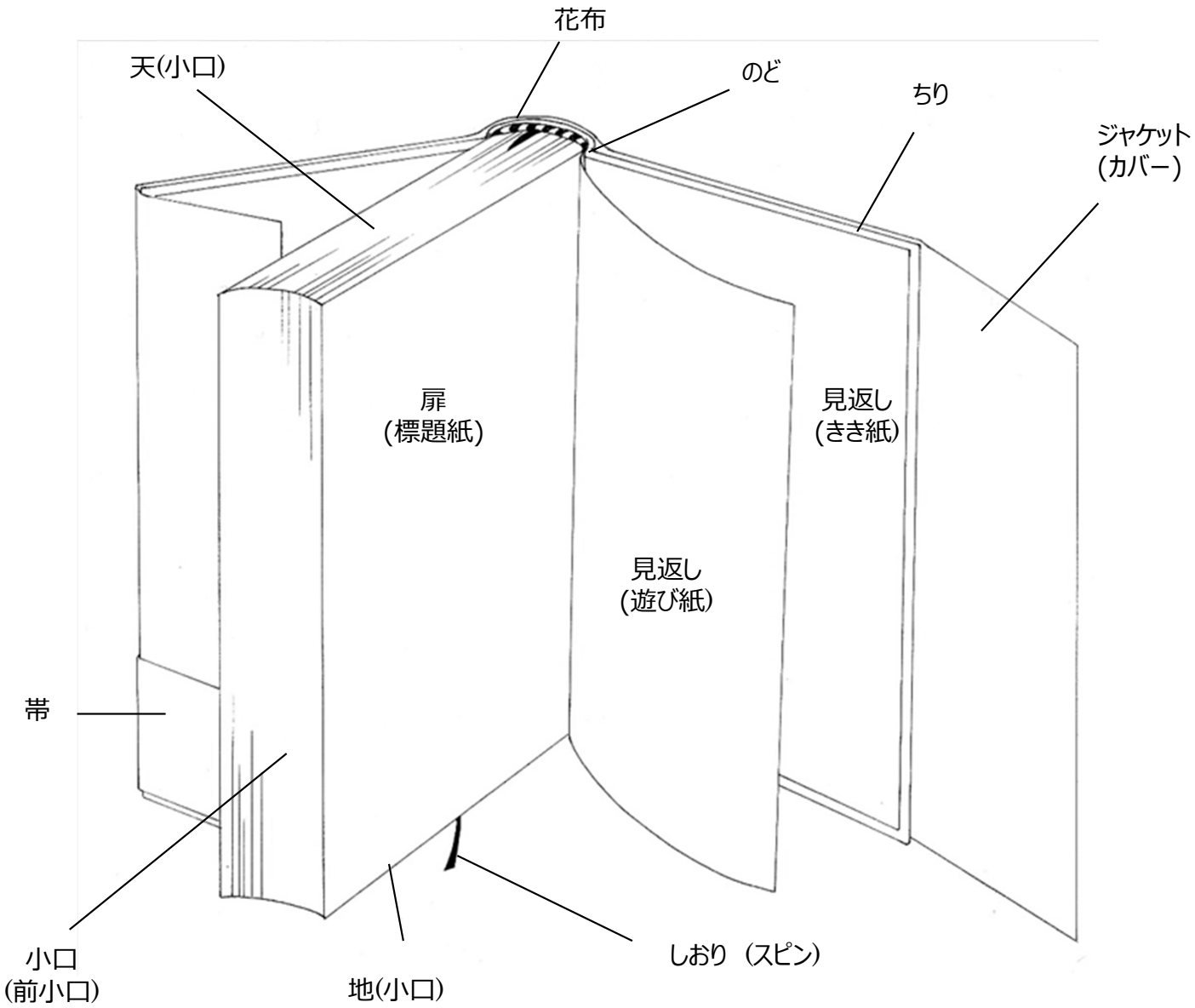
フレキシブルバック

厚めのソフトカバーなど
開きやすいが、傷みやすい。

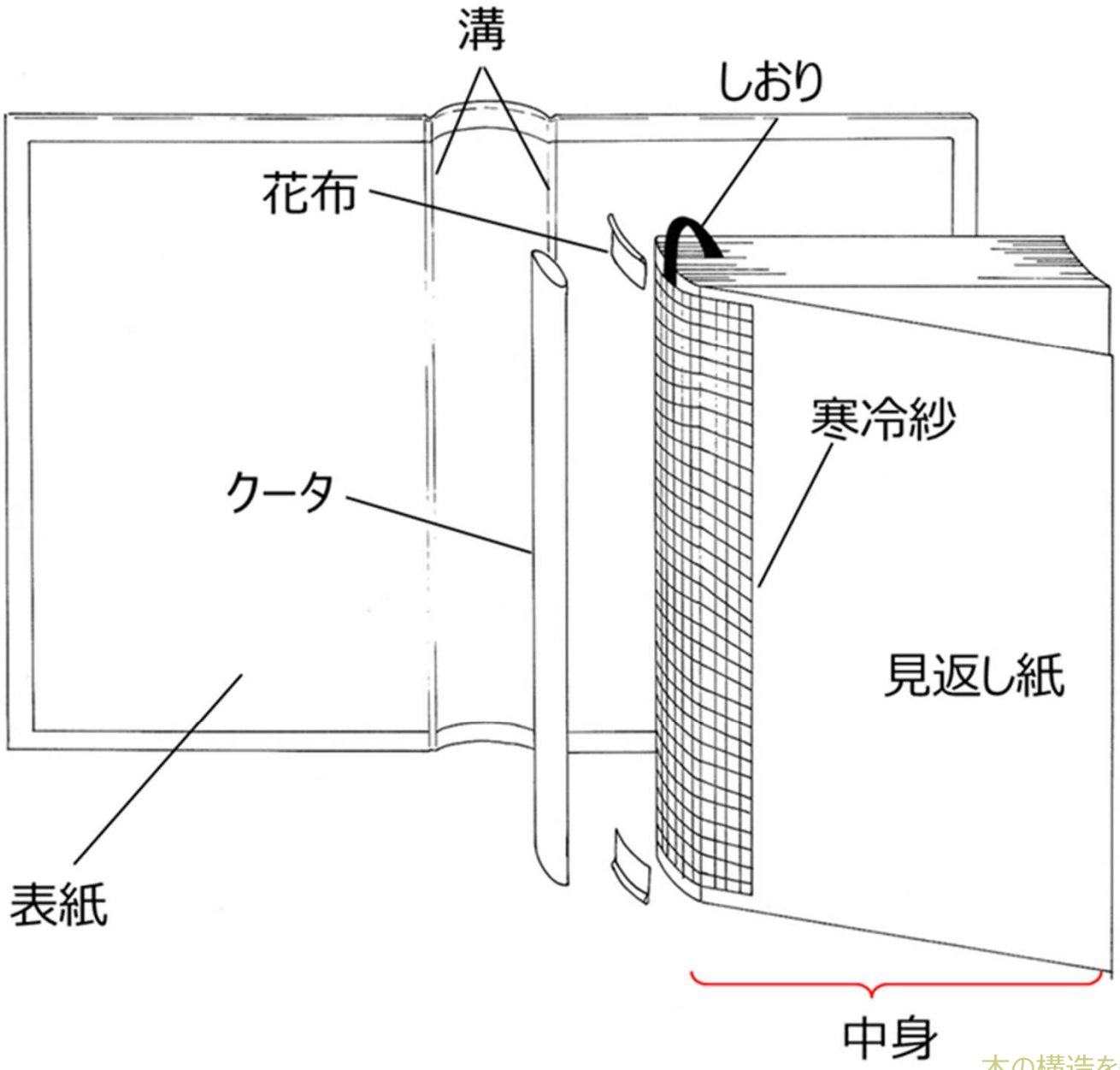
本の構造と名称（丸背上製本）



本の構造と名称（丸背上製本）



本の構造と名称（丸背上製本）



予防を考える

壊さないためにできること

扱い方

- 取り出す時　　・・・・花布に手を掛けない
- 配架するとき　　・・・・両手でそっと、ね

保存の仕方

- 指すら入らない・・・　　・・棚全体にゆとりを
- もう５センチ内側へ　・・・地震による落下防止
- 立っているだけで傷む作り・仰向けにねかせる
- 寝てる方が楽・・・・・・・大型本の置き方
- 内側から燃えてくる・・・・酸性紙対策
- おいしいものでできている・防虫とカビ対策

予防としての手当て

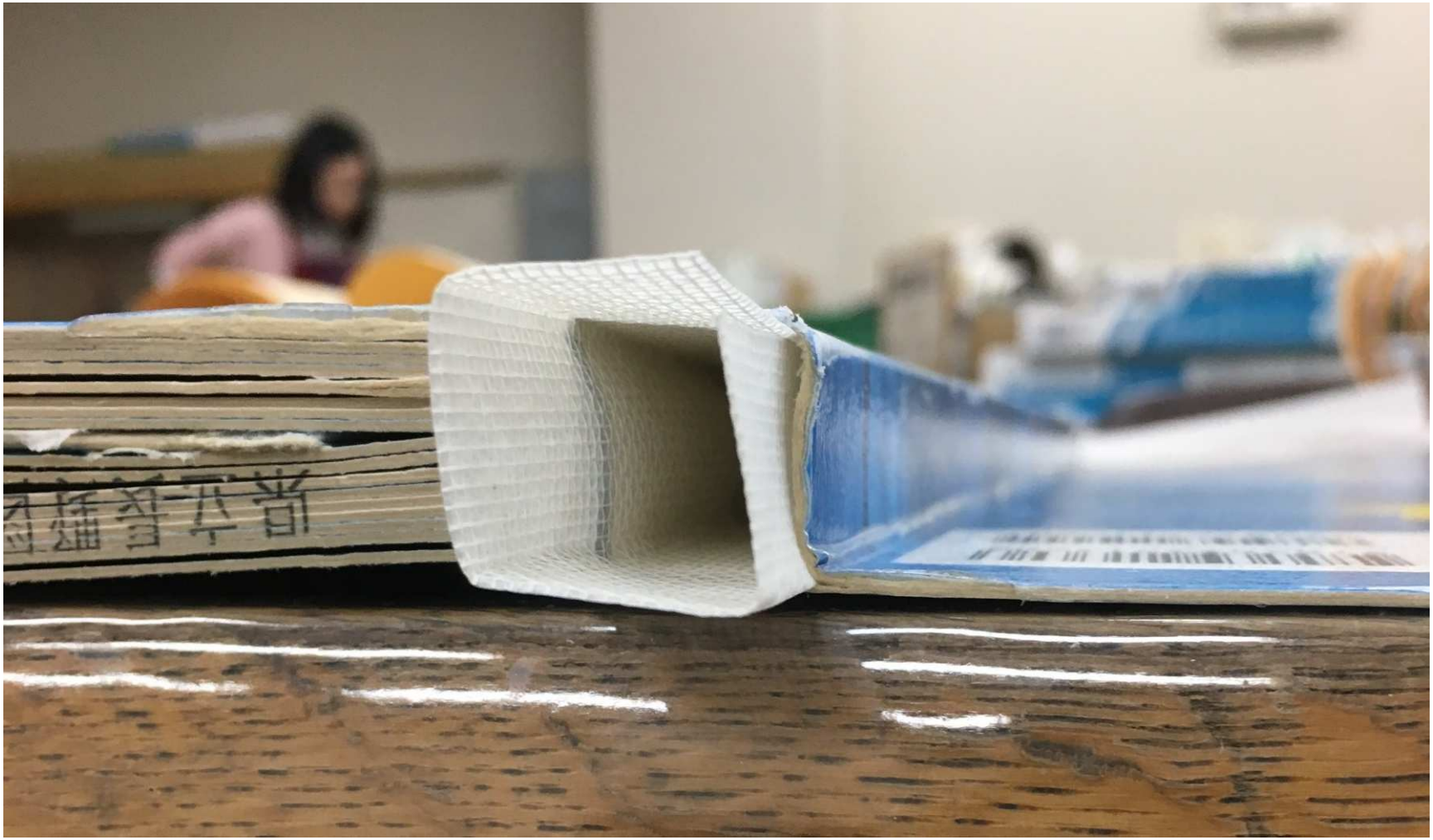
補強

- 造本の強化
- 適切なコーティング

除去

- 金物
- 使ってはいけないテープ類

大型絵本の破損予防　背表紙の壊れを防ぐ



背と背表紙の空間に寒冷紗を入れ補強する。

修理の必要性を考える

何のための資料か

- どういう活用を考えて、選書した資料か
- 利用頻度
- 内容の希少性、代替品はあるか
- 再購入した時の費用対効果
- 装丁、製本様式など物理的な価値

保存年限から修理方法を決める

永年保存する

10～20年
程度で廃棄

２～３年で廃棄

１年未満で廃棄

1年未満で廃棄

- ページ破れ
- ページはずれ

補修テープ類を
利用して
簡便に済ます

※ 間違ってもセロテープやブックコート類は使わないこと

2～3年で廃棄

- ページ破れ
- ページはずれ

⇒ 補修テープか和紙か考えて修理する

- のどの緩み
- 背の壊れ
- 汚損

10～20年程度で廃棄

- ページ破れ
- ページはずれ
- のどの緩み
- 背の壊れ
- 表紙はずれ（片側）
- 綴じの緩み
- 綴じ直し
- 汚損

和紙で修理する

永年保存する

- 買い替えができる ⇒ 購入予算を確保受入へ

- 買い替えができない ⇒ ここが一番のポイントです
  - 絶版
  - 1点もの
    - 私家版
    - **文化財的価値**

永年保存する（買い替えができない）

- ページ破れ
- ページはずれ
- のどの緩み
- 背の壊れ
- 表紙はずれ
- 綴じの緩み
- 綴じ直し
- 汚損

修理によるリスクを
常に考慮する

永年保存する（買い替えができない）

修理によるリスクとは

・もとの素材と違ったものが加わる

→ 本の印象が変わる

・強化した部分の周辺がかえって傷む

→ 開きが悪くなる

→ ページが ツレる

・将来、再修復したい時の弊害になる

永年保存する（買い替えができない）

・自館修理する

・自館修理しない

⇩

◆外部発注する

◆保護処置だけで、手を加えない

永年保存する（買い替えができない）

自館修理しない

◆外部発注する ⇨ 予算確保

文化財修復において

信頼のおける業者に委ねる。

◆保護処置だけで、手を加えない

利用頻度の低い資料は

それ以上ばらばらにならないように保護して、
保存袋や保存箱に入れる。

修理の方法を知る

ページ破れ

ページを繕う

・破れの方向によっては、そのまま糊付けをする

・修復用和紙テープで済ます

・和紙を使って糊付けする

ページ破れ

ページはずれ

・そのままページを差し込む

・和紙で のりしろ を付けて差し込む

・小口を整える

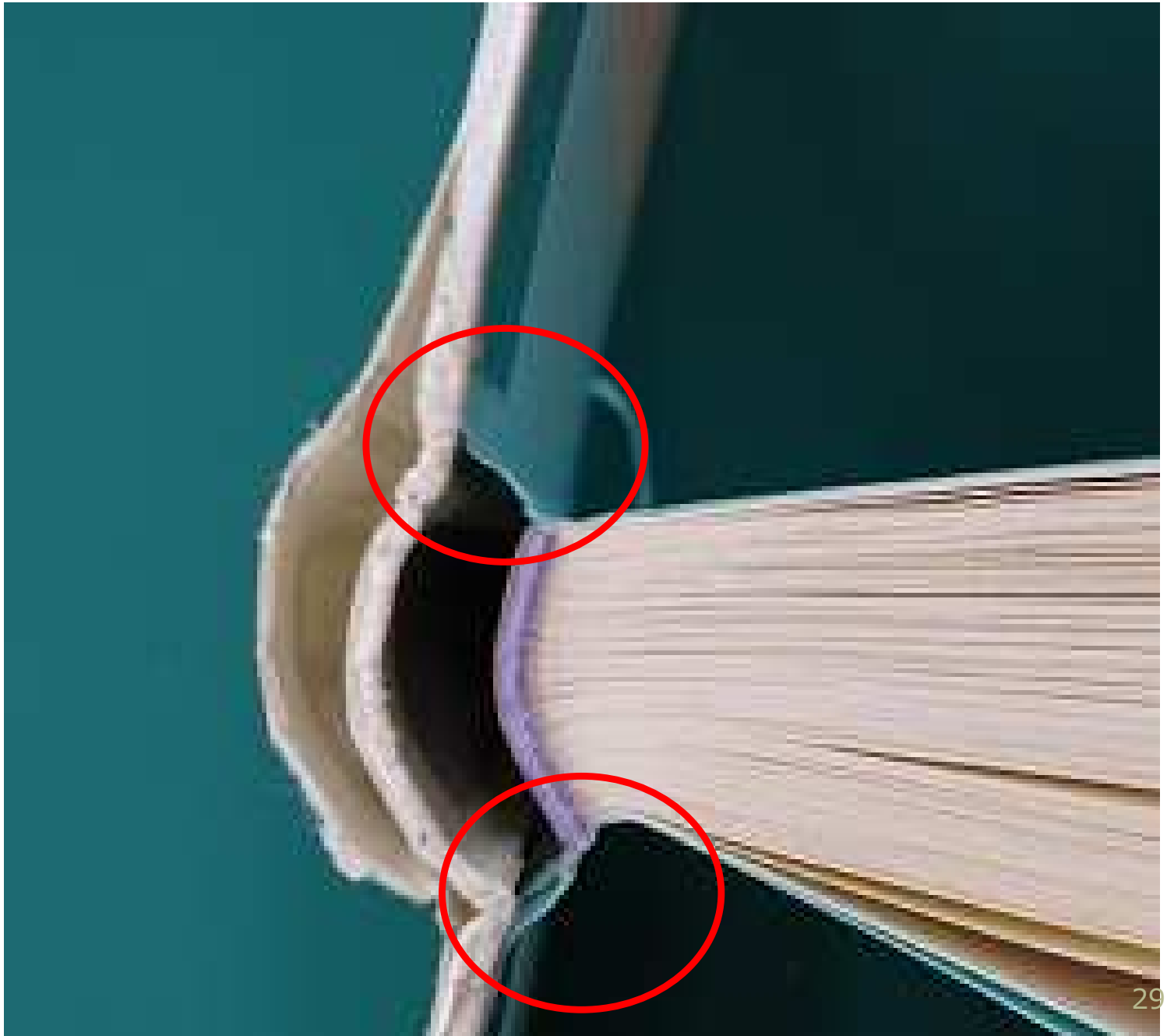
のどの緩み

・見返しのきき紙と のどの糊が はがれてきた状態のこと

・きき紙と のどの部分だけに糊入れをする

・のどの緩みの段階で手を加えておくと
背の傷みまで進展しにくい

のどの緩み



背の壊れ

- のどの部分で背表紙だけが切れた状態
  （片側だけと両側の場合がある）

- クータを使ってフォローバックとして修理することが多い

背の壊れ

修理の方法を知る

表紙はずれ

- のどの部分で表紙が外れた状態
  （片側だけと両側外れる場合がある）

- 見返紙の残り方で修復方法が異なる

表紙はずれ

綴じの緩み

- 緩みの原因を確認し、緩んだ糸を締め、糊止めしてから、他の部分の修復をする。

綴じ直し

元々の製本状況によって修復方法が異なる

- 無線綴じ
  - → 平綴じ
  - → 麻糸を背に埋め込む無線綴じ

- 上製本（糸綴じ）
  - → 平綴じ
  - → 綴じ穴を補強（or切り直）して
    かがり綴じ

汚損

- 利用者による修復

  セロテープなどは熱を加えて剥がす

- 書き込み

  消しゴム、アルコール溶剤などで消す

- 水濡れ

  まだ濡れている場合は

  ティッシュ等を挟みながらプレスする

※ 弁償，再購入

絵本の破損事例

綴じの緩みを防ぐ

天地に花布を貼付し、綴じがばらけるのを防ぐ。

絵本の破損事例

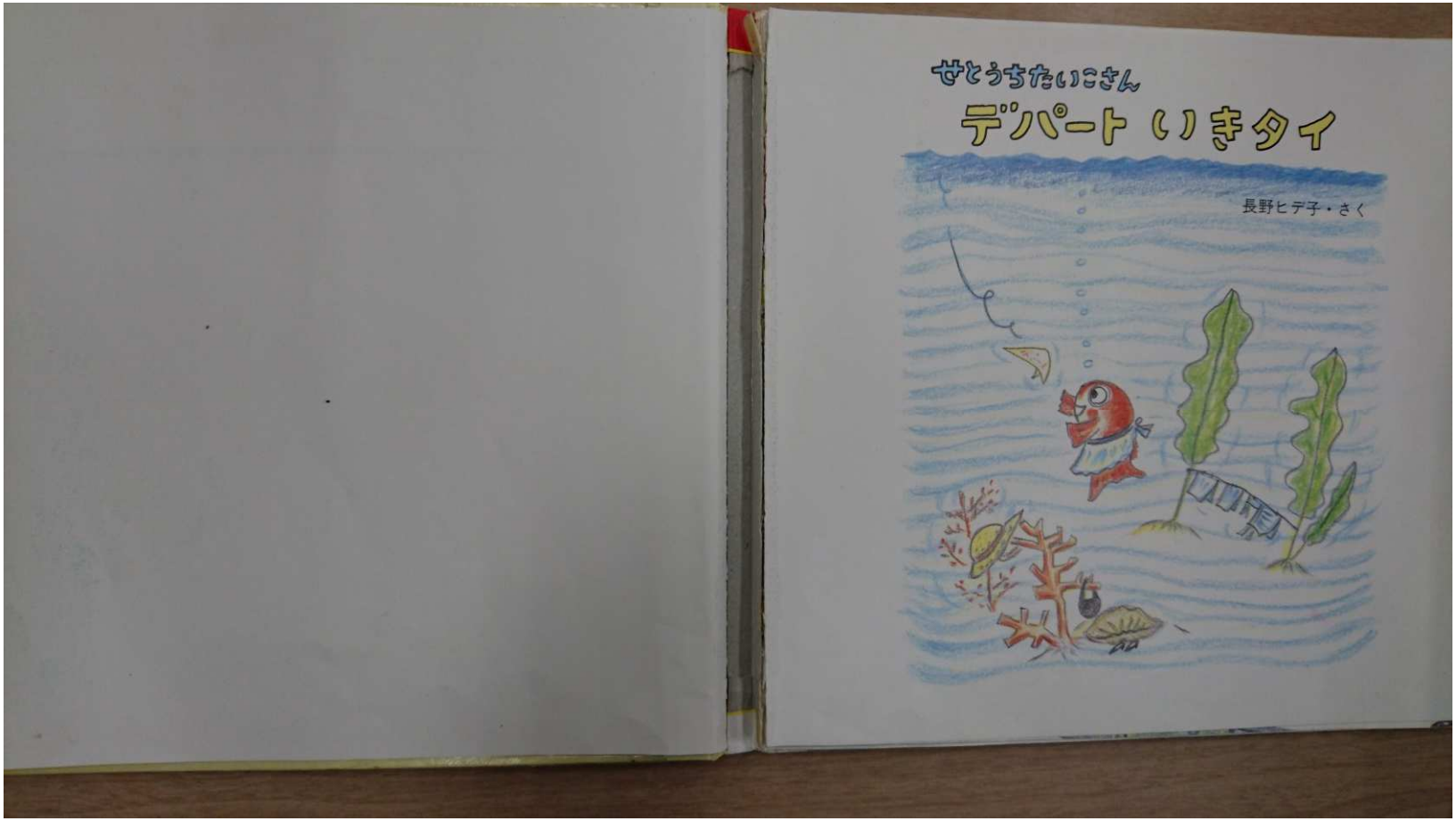
糸の緩み

糸を手繰って締め直し、糊止めをする。

絵本の破損事例

糸の切れによる背割れ（中央）

絵本の破損事例



糸の切れによる背割れ（見返し付近）

残った糸を締め直し、糊止め(1:1)をする。
寒冷紗を使い、背を補強する。見返しをはがして、寒冷紗を押し込む

考え方のまとめ

- 資料の目的に沿った修理をする
- 無理はしない（本にも、人にも）
- 修理する時はできるだけ原型を尊重
- 強固にするのではなく、柔らかく直す

修理のための
道具と材料を知ろう

修理のための道具と材料

<道具>

・筆（面相筆、平筆など）　・刷毛（小箒）
・糊皿　・はさみ　・カッター　・カッティングマット
・定規　・山型クリップ　・霧吹き
・編み棒(竹串、プラ棒など本の溝用　２本１組）
・締め機　・締め板　・重石　・目打ち　・目打ち板
・目打ちタタキ　・木槌　・ピンセット　・へら
・針　・たわし　・ノコギリ
・ドライヤー　・アイロン(こて)
【・水筆　・茶こし　・スパチュラ　・スケッパー】
・濡れタオル（糊の拭き取り / 押さえ用）
・乾いたタオル(糊の接着用)など

県立図書館で使っている主な道具

修理のための道具と材料

＜材料＞

・糊 ・和紙(楮紙) ・中性紙 ・封筒(クラフト紙)
・花布 ・しおりひも(スピン) ・麻糸・平麻 ・寒冷紗
・補修テープ類 ・エタノール ・ベンジン

・クッキングシート
(ワックスペーパー,不織布(薄))
・キッチンペーパー ・捨て紙（色移りしないもの）
・ベビーパウダーなど

県立図書館で使っている主な材料

紙と糊を知る

＜和紙（楮紙）＞

- 極薄(5g/㎡程度)
  文字が透けて見える。ページの補修に使用する。典具帖。
- 薄(10g/㎡程度)
  ページの補修に使用する。扱いやすく汎用性が高い。典具帖。
- 中厚(20g/㎡程度)
  ページ欠損などの補修に使用する。クータにも使用。
- 厚(30g/㎡程度)
  表紙など厚い紙の補修に使用。
  もっと厚みが欲しい場合は、何枚か貼り合わせて使用する。

出典：『防ぐ技術・治す技術』日本図書館協会　2005　p.11

紙と糊を知る

＜タテ目とヨコ目＞

- 紙の製造過程でできる繊維の並ぶ方向を「紙の目」と言う。本の「紙の目」は、天地方向にタテ目になるように作られる。ヨコ目になっていると、本が開きにくくなり、壊れやすいものになる。

タテ目

紙を破いたとき、きれいに裂ける。曲げやすい。

ヨコ目

紙を破いたとき、引っ掛かりのある裂け方をする。
反発が大きい。水分を含むと伸びが大きく波打つ。

紙と糊を知る

＜糊＞

- でんぷん糊

  一般的に市販されているでんぷんでできた糊。乾くまでに時間がかかるが、水に溶けるので水でぬらし再び剥がすことができる。水で溶きよく練って濃度を調整し、主に補修、和紙の糊付けに使用する。

- ボンド(製本用糊)

  製本用として市販されている化学糊。乾きが早く、接着力も強い。いったん接着すると元通りに剥がすことはできない。水溶性なので、水で濃度を調整し使用する。

- 混合糊

  でんぷん糊と製本用糊を混ぜた糊。水で濃度を調節する。調合により、乾き具合や硬さの調節ができるので資料への負担を軽減することができる。

- 生麩糊(しょうふのり)

  和紙資料の本格的な修理に使われる。小麦でんぷんを水で煮た糊。

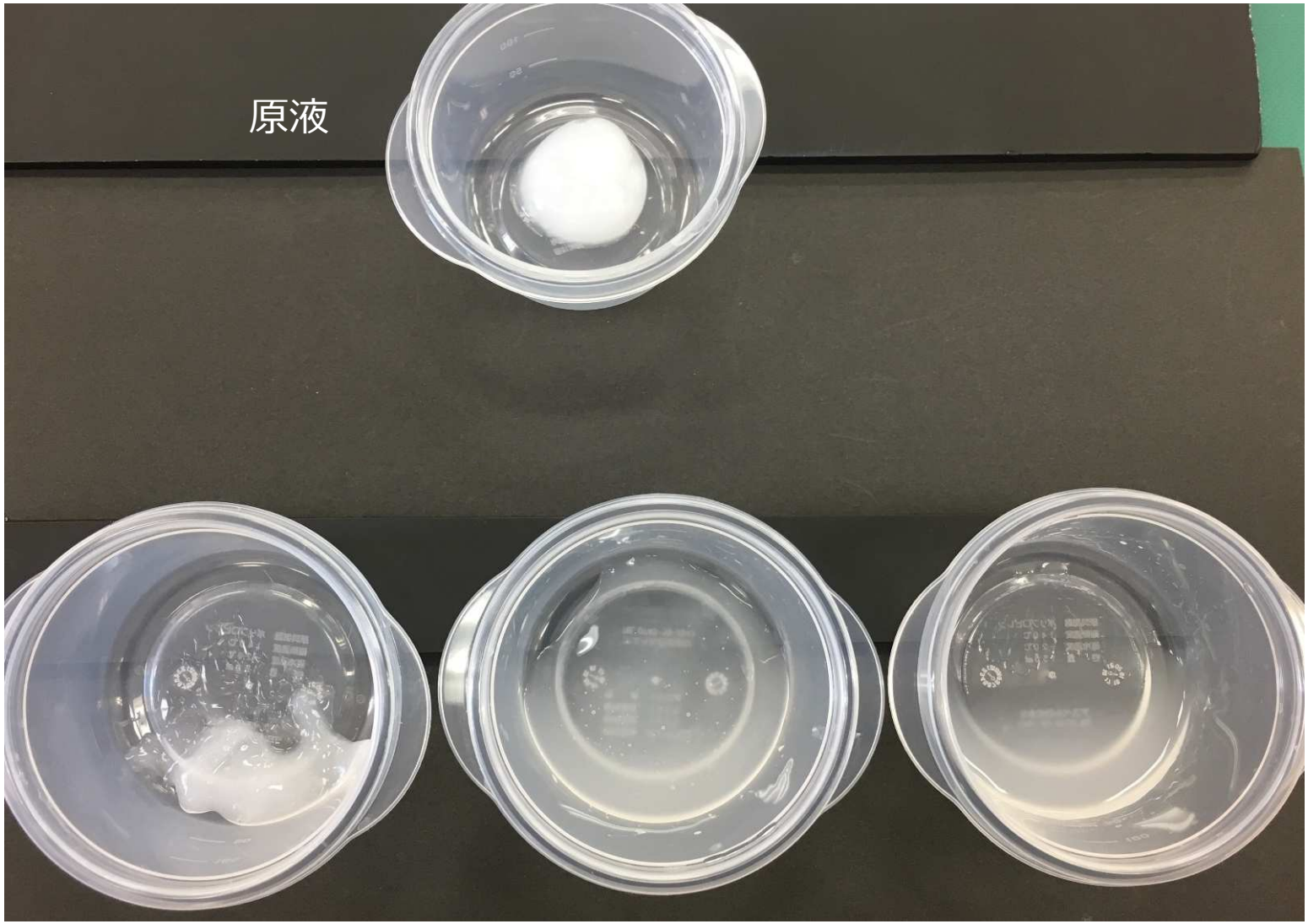
紙と糊を知る

＜でんぷん糊の濃度と用途＞

・薄（米のとぎ汁程度）
　　和紙と和紙の接着（裏打ち、補修）
・中（重湯・ポタージュ程度）
　　和紙と洋紙の接着／洋紙と洋紙の接着
・濃（粥・マヨネーズ程度）
　　紙と紙以外（例えば布）の接着

出典：『防ぐ技術・治す技術』 日本図書館協会　2005　p.11

紙と糊を知る



濃（粥・マヨネーズ程度）　中（重湯・ポタージュ程度）　薄（米のとぎ汁程度）

修理の基本を実践

絵本・児童書編（初級）

基本の技術

- 最小限の糊で、本に負担がかからないように修理する。
- 糊が乾くまで次の工程には移らない。
- 利用のための最小限の修理にとどめる。

喰い裂きの和紙（和紙の帯）を作る

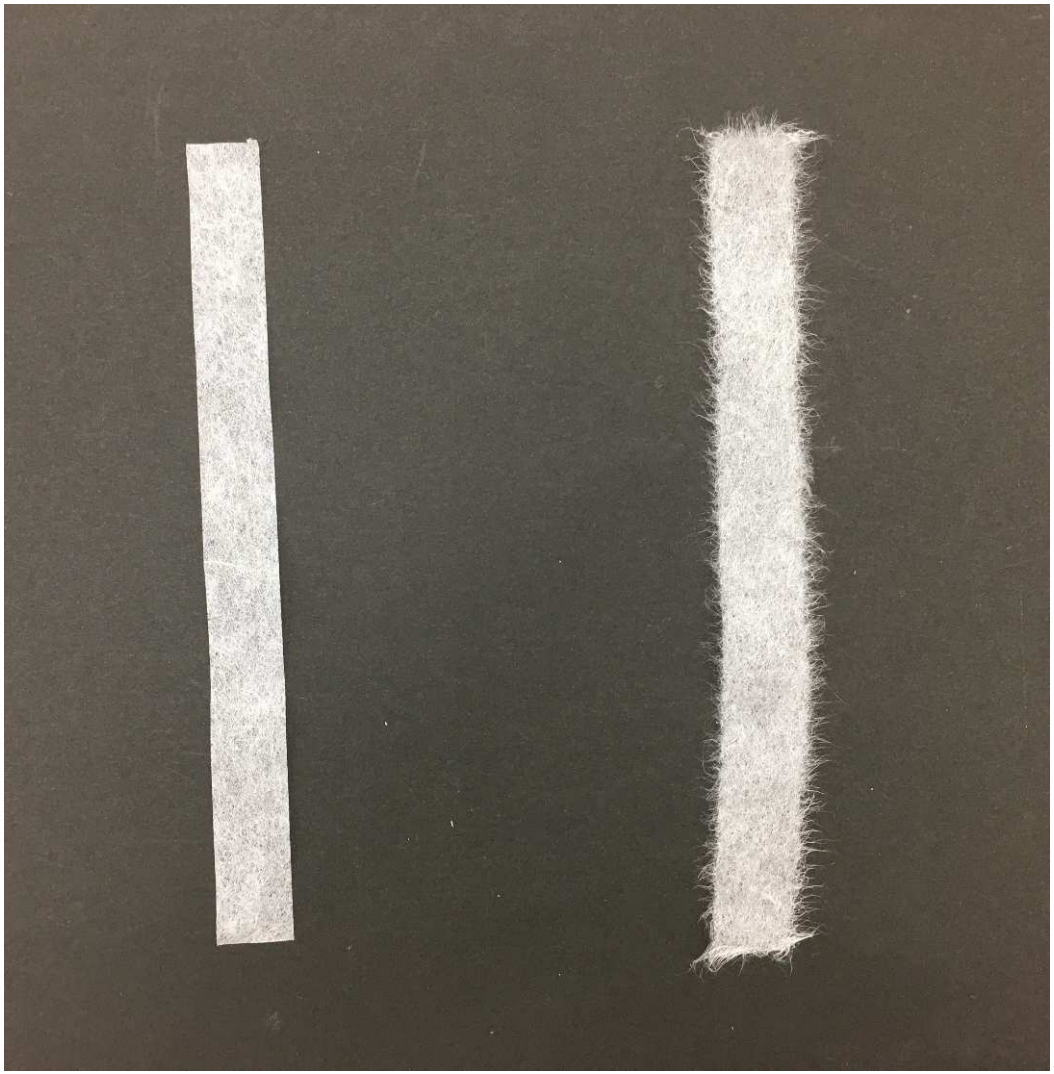
1. 薄い和紙（厚めの典具帖紙）を用意する。
2. 1㎝程度の幅に合わせて定規をおき、定規に沿って水筆で線を引くように和紙を湿らせる。
3. へらの先ですじをつける。
4. 和紙の端をゆっくり引いて、裂く。（段差のある板などの上などで作業をし、端を利用すると裂きやすい。）

＊和紙の繊維が広がることにより、ページとの馴染みがよくなり補強される。

＊修理する破れの紙の目に合わせ、タテ目・ヨコ目の和紙を用意する。

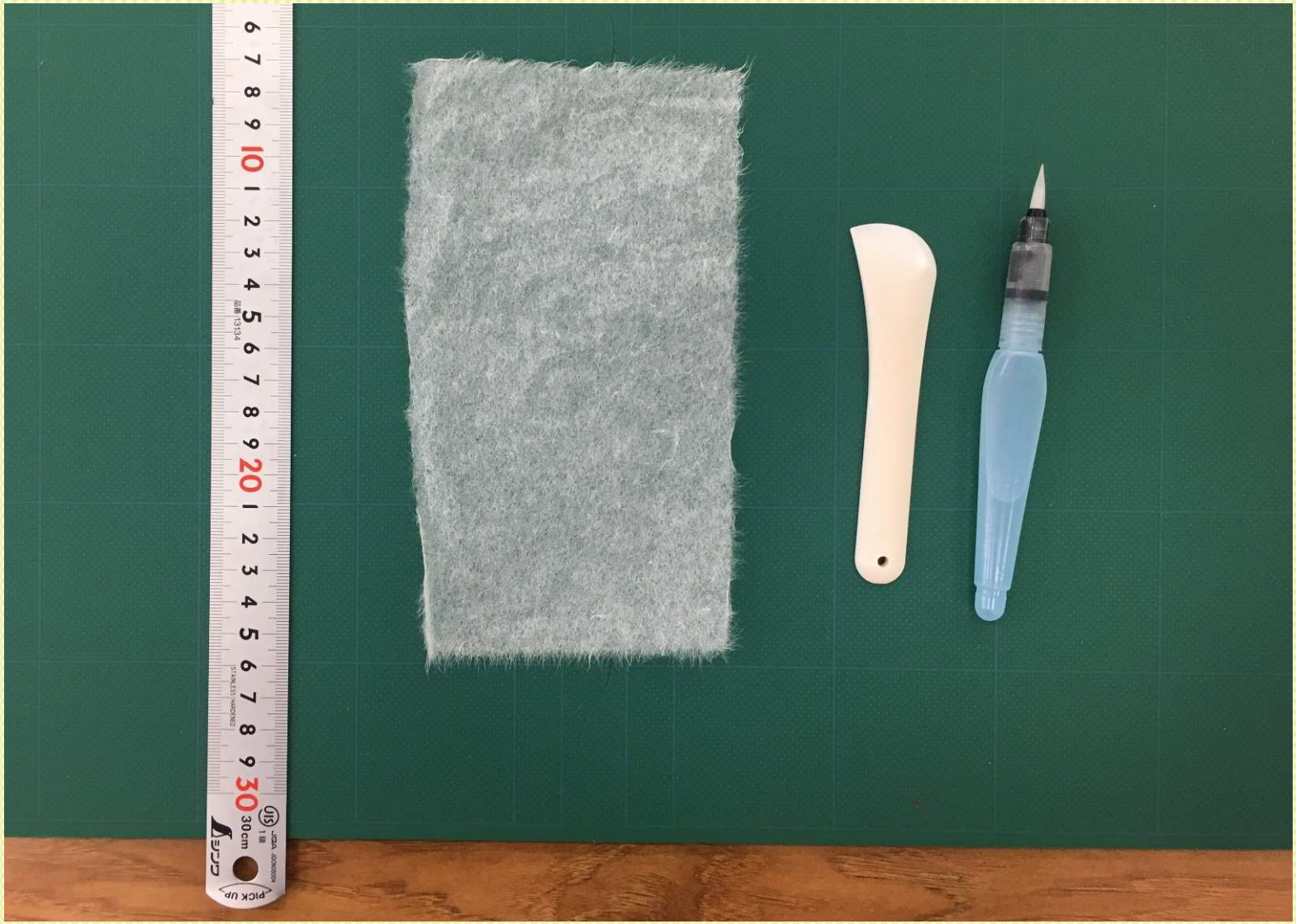
＊和紙の幅は、破れの大きさや用途によって変える。

喰い裂きの和紙（和紙の帯）を作る

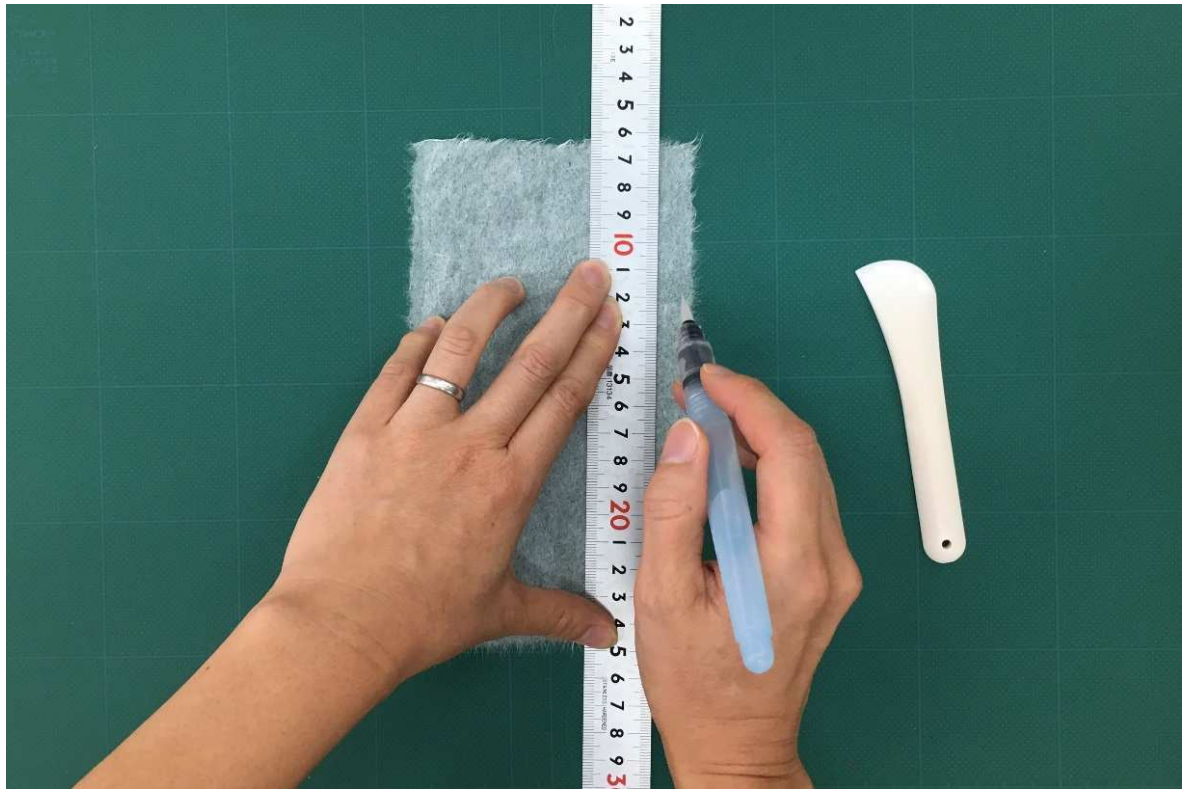


和紙の繊維が広がることにより、ページとの馴染みがよくなり補強される。

喰い裂きの和紙（和紙の帯）を作る

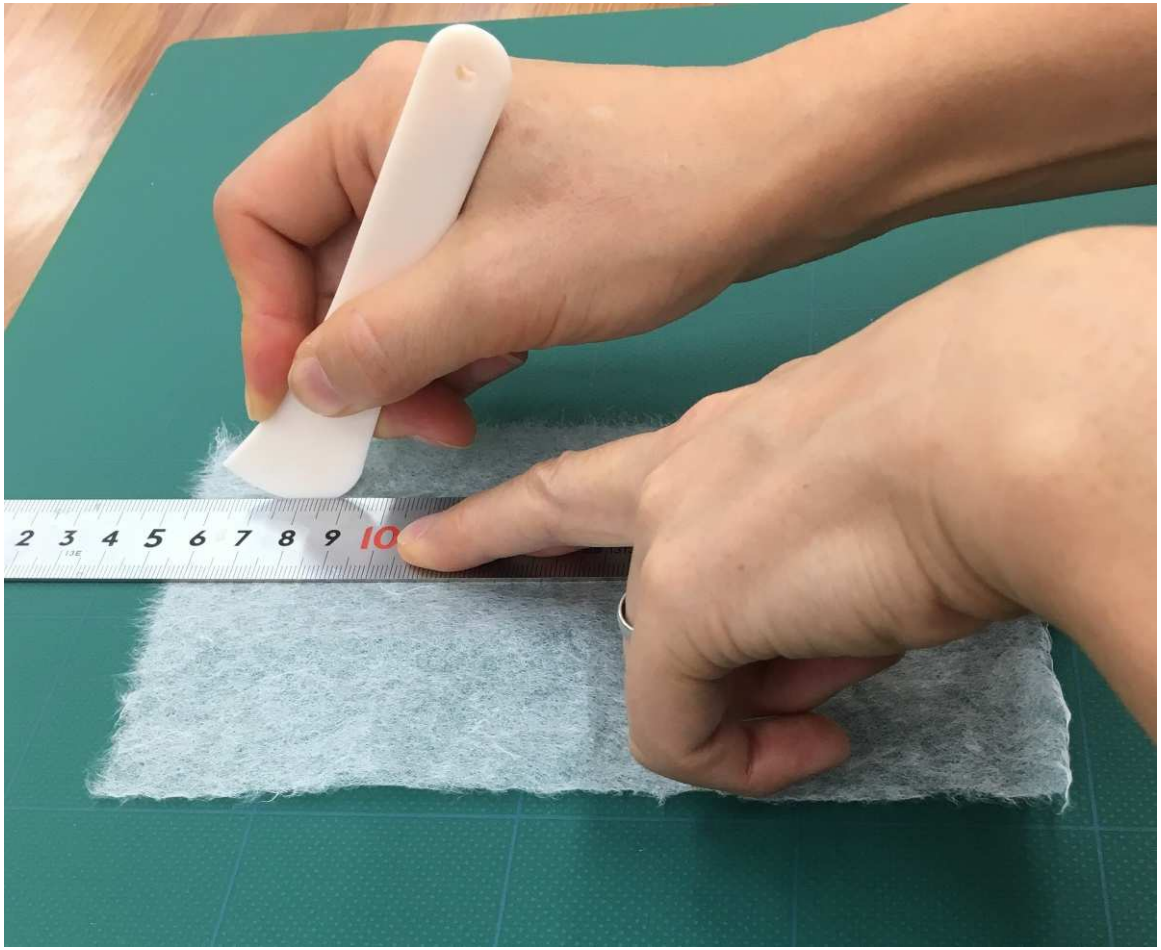


喰い裂きの和紙（和紙の帯）を作る



1㎝程度の幅に合わせて定規をおき、定規に沿って水筆で線を引くように和紙を湿らせる。

喰い裂きの和紙（和紙の帯）を作る



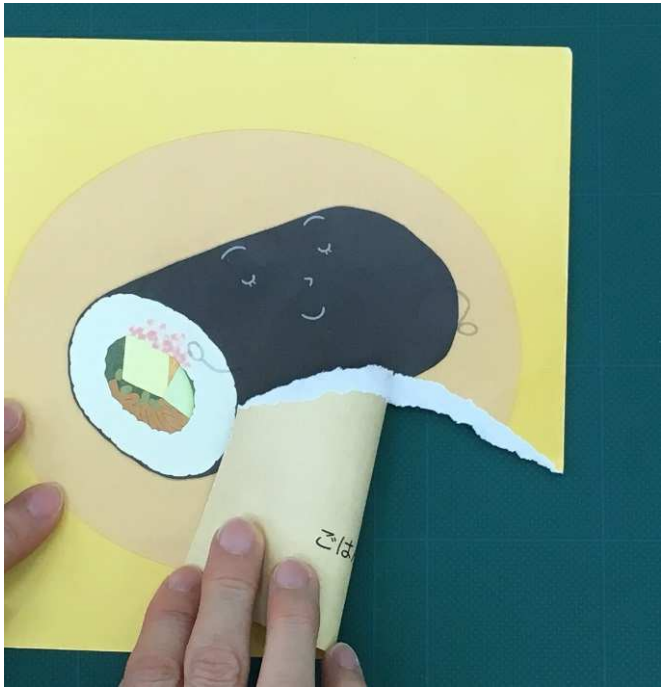
へらの先ですじをつける。

喰い裂きの和紙（和紙の帯）を作る

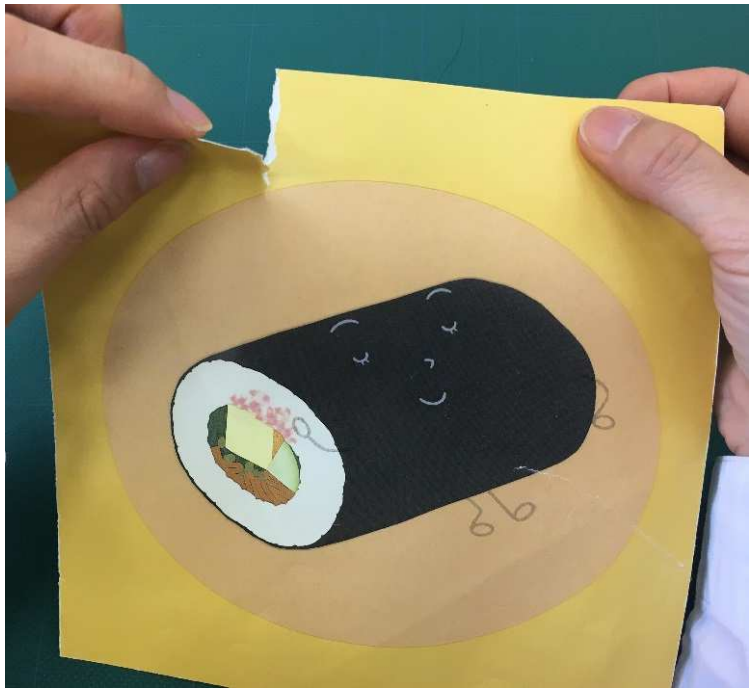
和紙が乾かないうちに、横に和紙の端をゆっくり引いて、裂く。紙の繊維が引き出されている。

接着時、和紙の繊維自然に広がり、紙になじむ。段差が少なく、補修箇所を目立たなくしてくれる。

ページ破れ



横目の破れ
裂け目に紙の繊維が多く残る



縦目の破れ
裂け目の繊維が少ない

実習で使うもの

ページ破れ でんぷん糊で補修する

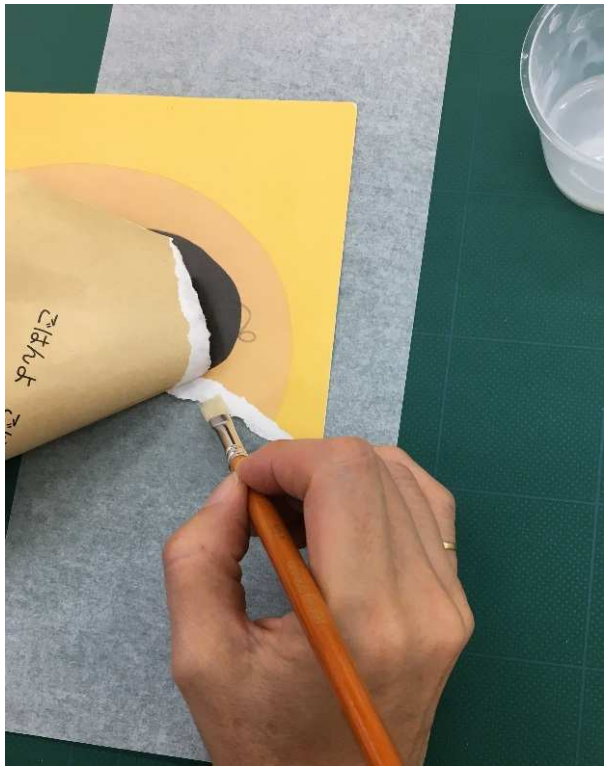
1. 破れたページの下に、クッキングシートを敷く。
2. 裂け方を確認し、断面の片方に中濃度のでんぷん糊を塗る。
3. 断面の合わせに注意して貼り合わせる。糊がはみ出したら、軽く押さえる。
4. クッキングシートをページの上にのせ、へらで優しく押さえる。
5. 締め板にはさみ、重石をのせて30分～1時間程度乾かす。
6. 乾いたら破れの接着具合を確認する。
7. 上手く接着していない場合は、浮いた部分に糊を差してもう一度乾かす。

ページ破れ（横目）

破れたページの下に、クッキングシートを敷く。

ページ破れ（横目）　破れたページを糊付けする

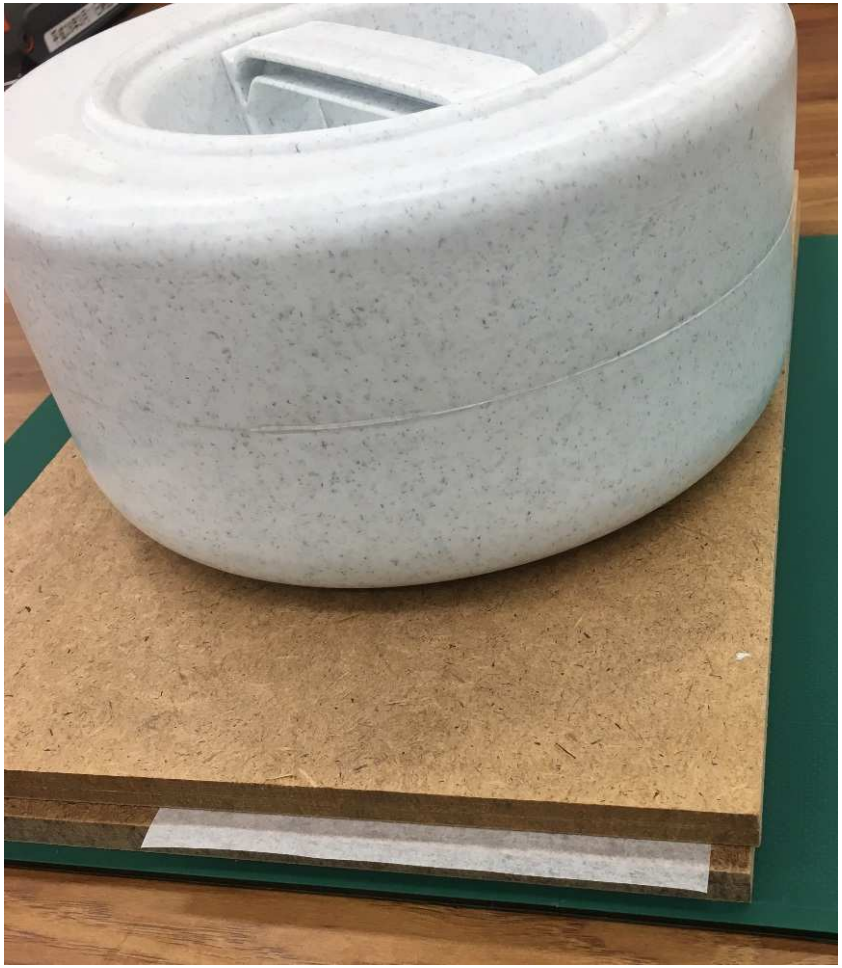
裂け方を確認し、断面の片方に中濃度のでんぷん糊を塗る。



断面の合わせに注意して貼り合わせる。糊がはみ出したら、軽く押さえる。

クッキングシートをページの上にのせ、へらで優しく押さえる。

ページ破れ（横目）　破れたページを糊付けする



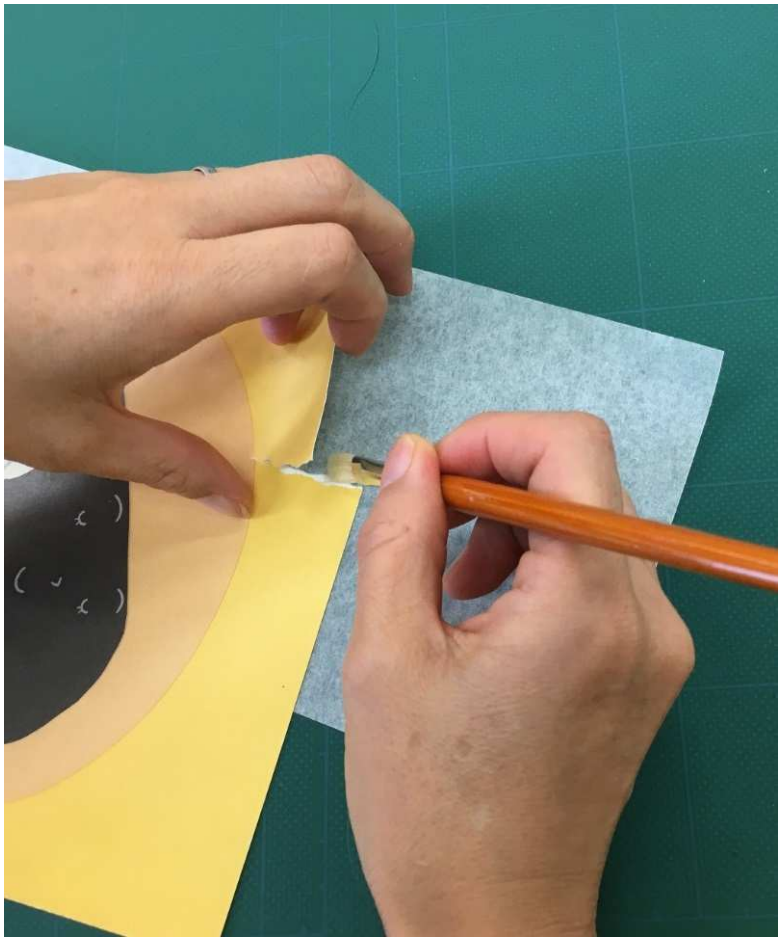
締め板にはさみ、重石をのせて30分～1時間程度乾かす。

ページ破れ でんぷん糊と和紙で補修する

1. 「でんぷん糊で補修する」と同じようにページを補修する。
2. 破れの紙の目に合った喰い裂きの和紙を破れの長さ＋１～2cmくらいで用意する。
3. 喰い裂きの和紙のはみ出し部分1cm程度（手で持ちやすい）を残して、中濃度のでんぷん糊をまんべなく塗る。
4. ページの破れた紙の目に合わせて、和紙を貼る。
5. クッキングシートをのせ、上からへらなどでこすり、糊を定着させる。
6. クッキングシートをページに鋏んだまま本を閉じる。締め板ではさみ、重石を載せて１時間～2時間程度乾かす。
7. ページからはみ出した和紙を筒状にしたヤスリやハサミなどで切り落とす。

＊早く乾かしたい場合は、何回か本を開いて風を通す。

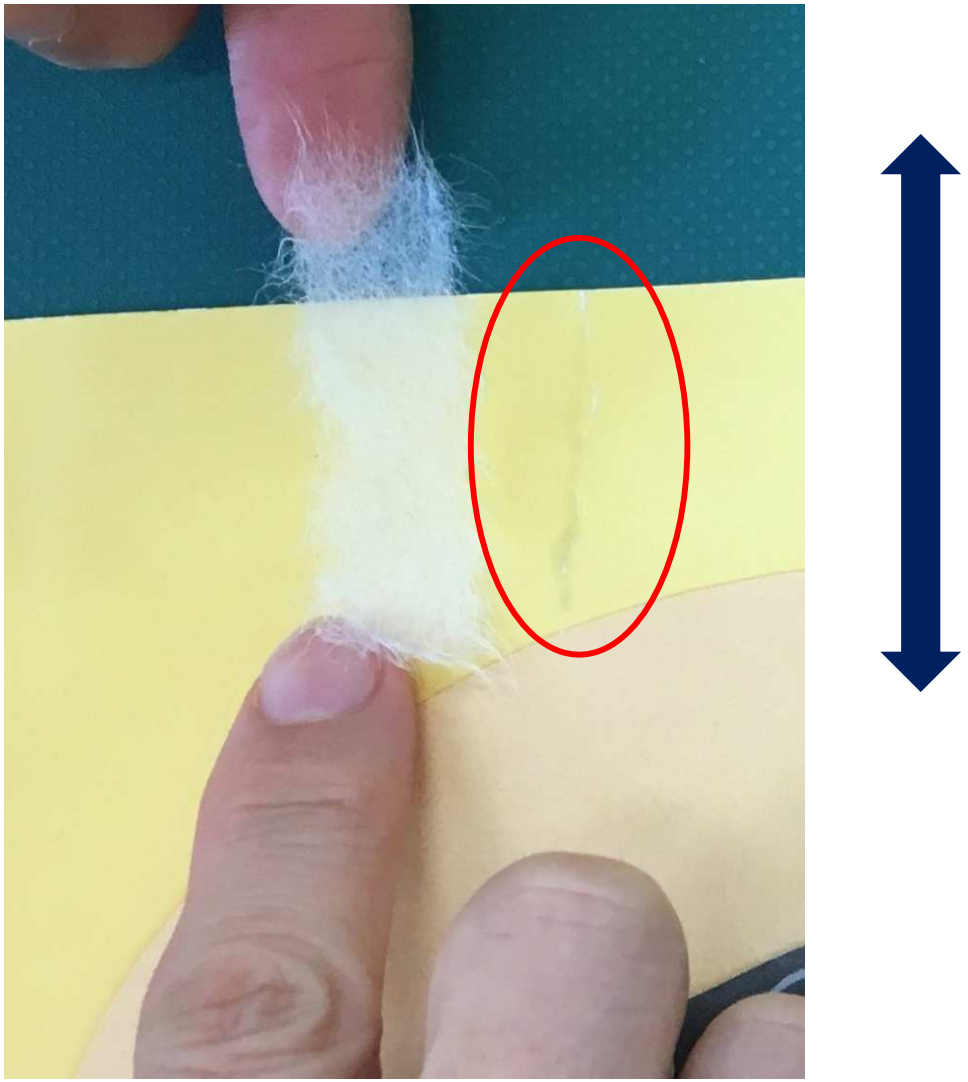
ページ破れ でんぷん糊と和紙で補修する



「でんぷん糊で補修する」と同じようにページを補修する。

破れた裂け目に糊（中濃度）をうすく塗り、クッキングシートではさみ上からこする。

ページ破れ でんぷん糊と和紙で補修する



破れの紙の目に合った喰い裂きの和紙を破れの長さ＋ １～2cmくらいで用意する。

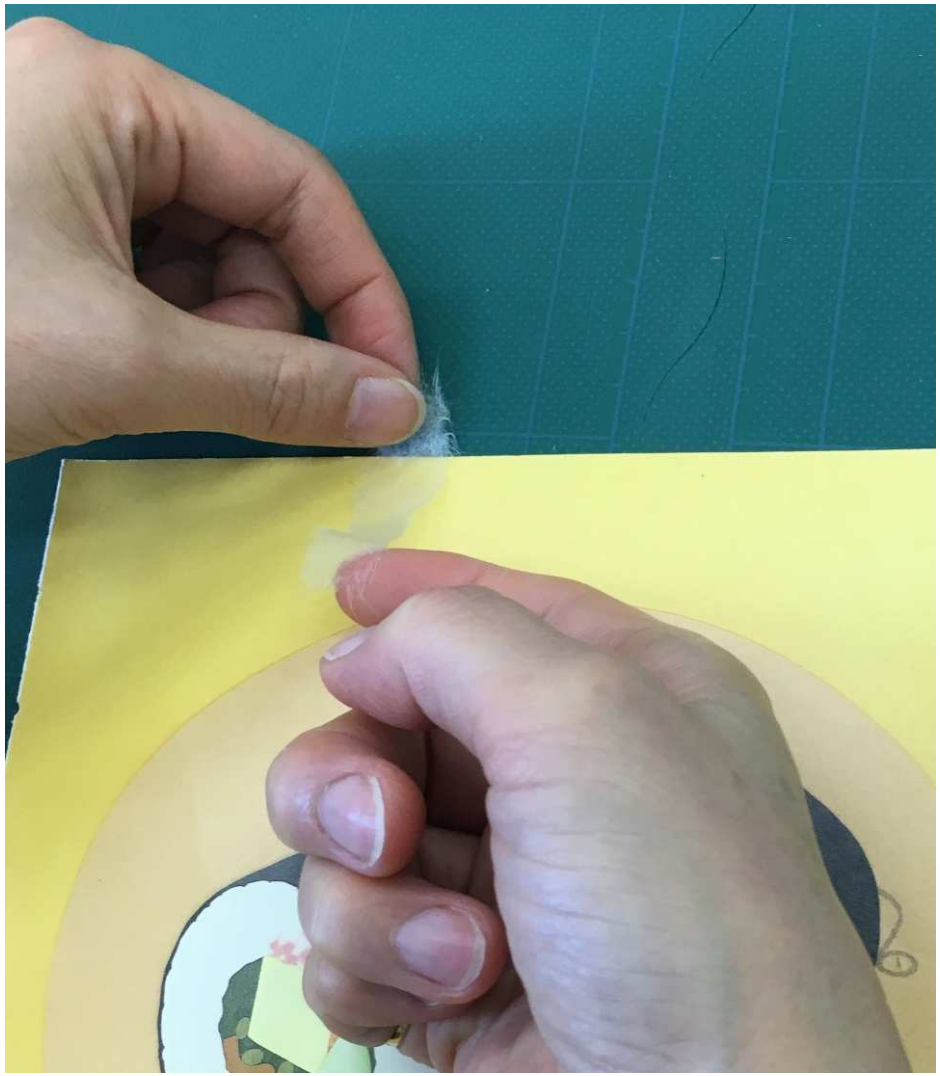
ページ破れ でんぷん糊と和紙で補修する

和紙に中濃度のでんぷん糊を
まんべんなく塗る。糊の塗りすぎ
に注意する。

筆は、内側から外側へ動かす。

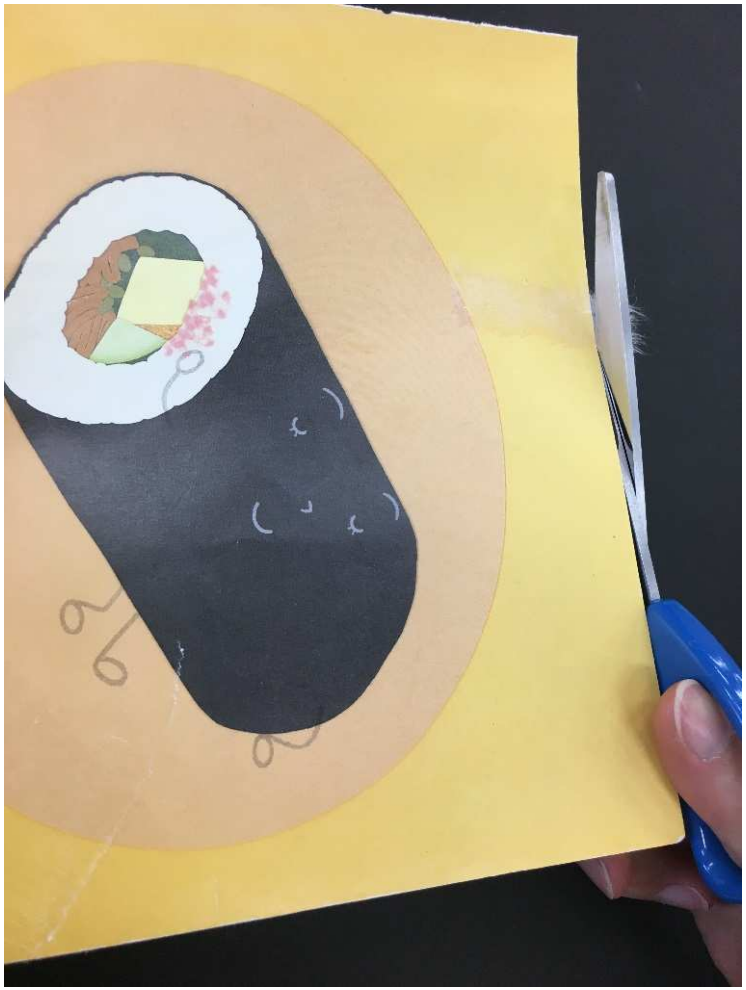
ポイント！
何度か筆を走らせ糊をなじませて、余分な糊を取り除く。
手で持つ部分には、糊をつけないで残す。

ページ破れ でんぷん糊と和紙で補修する



ページの破れた紙の目に合わせて、和紙を貼る。
クッキングシートをのせ、上からへらや乾いたタオルなどでこすり、糊を定着させる。

ページ破れ でんぷん糊と和紙で補修する



締め板ではさみ、重石を載せて１時間～2時間程度乾かす。

ページからはみ出した和紙を筒状にしたヤスリやハサミなどで切り落とす。

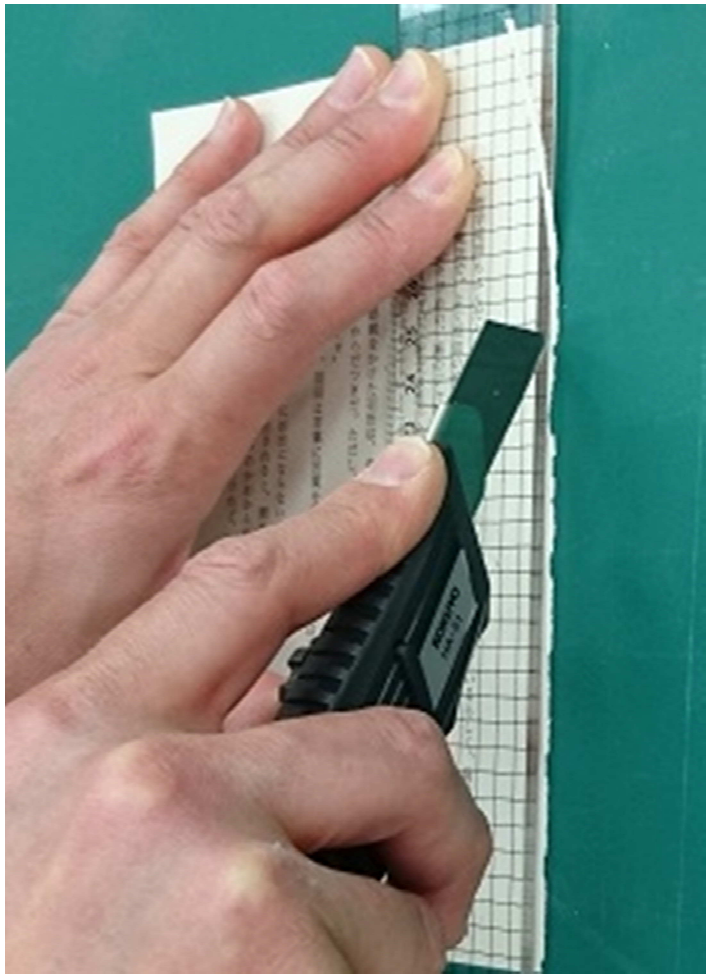
ページはずれ　１枚だけはずれた場合

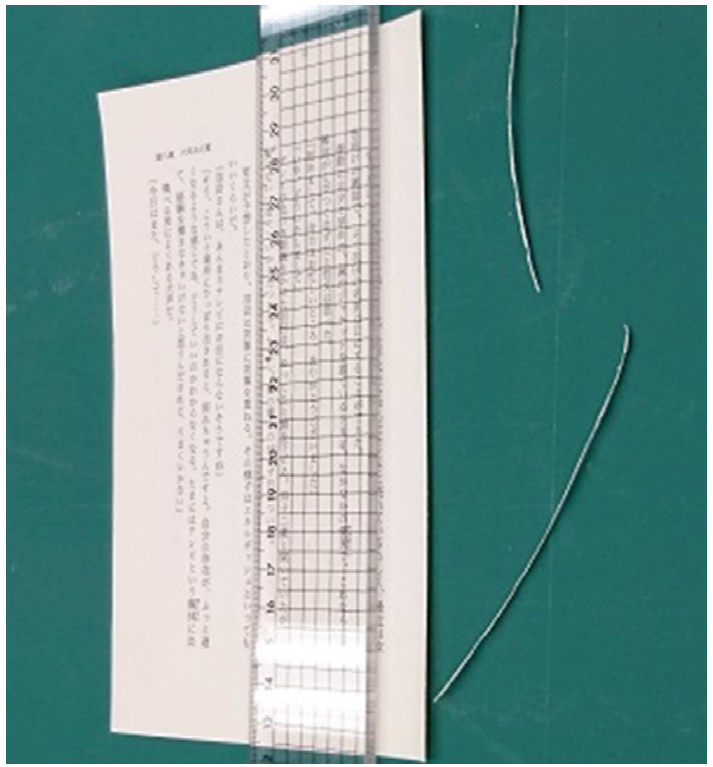
1. はずれたページの「のど」部分をカッターできれいに整える。
2. 「のど」側から１～２ｍｍに、でんぷん糊（中濃度）を塗る。
3. 天地がはみ出さないように、はずれた個所にページを差 し込む。
4. 本を閉じ、上からこすって糊を定着させる。
5. 締め板で本を挟み乾くまで重石を載せておく。
6. はみ出したページを筒状のヤスリでこそげ落とす。

※表紙やブックコートを傷つけないように注意する。

主な道具

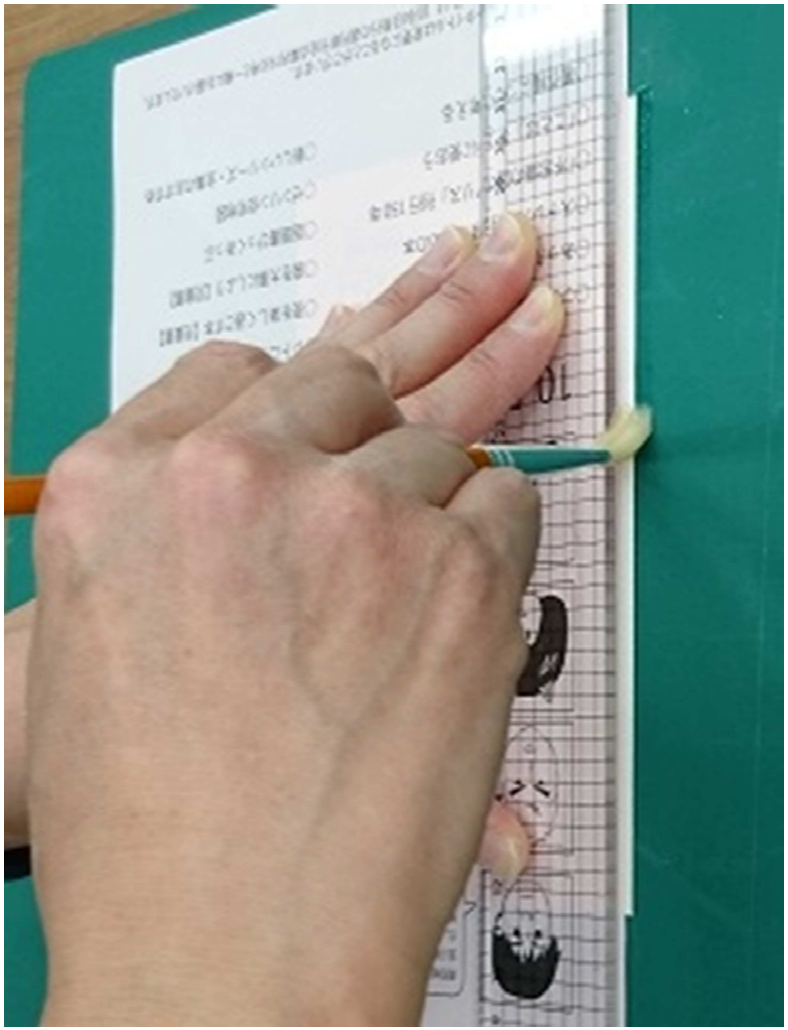
ページはずれ　１枚だけはずれた場合





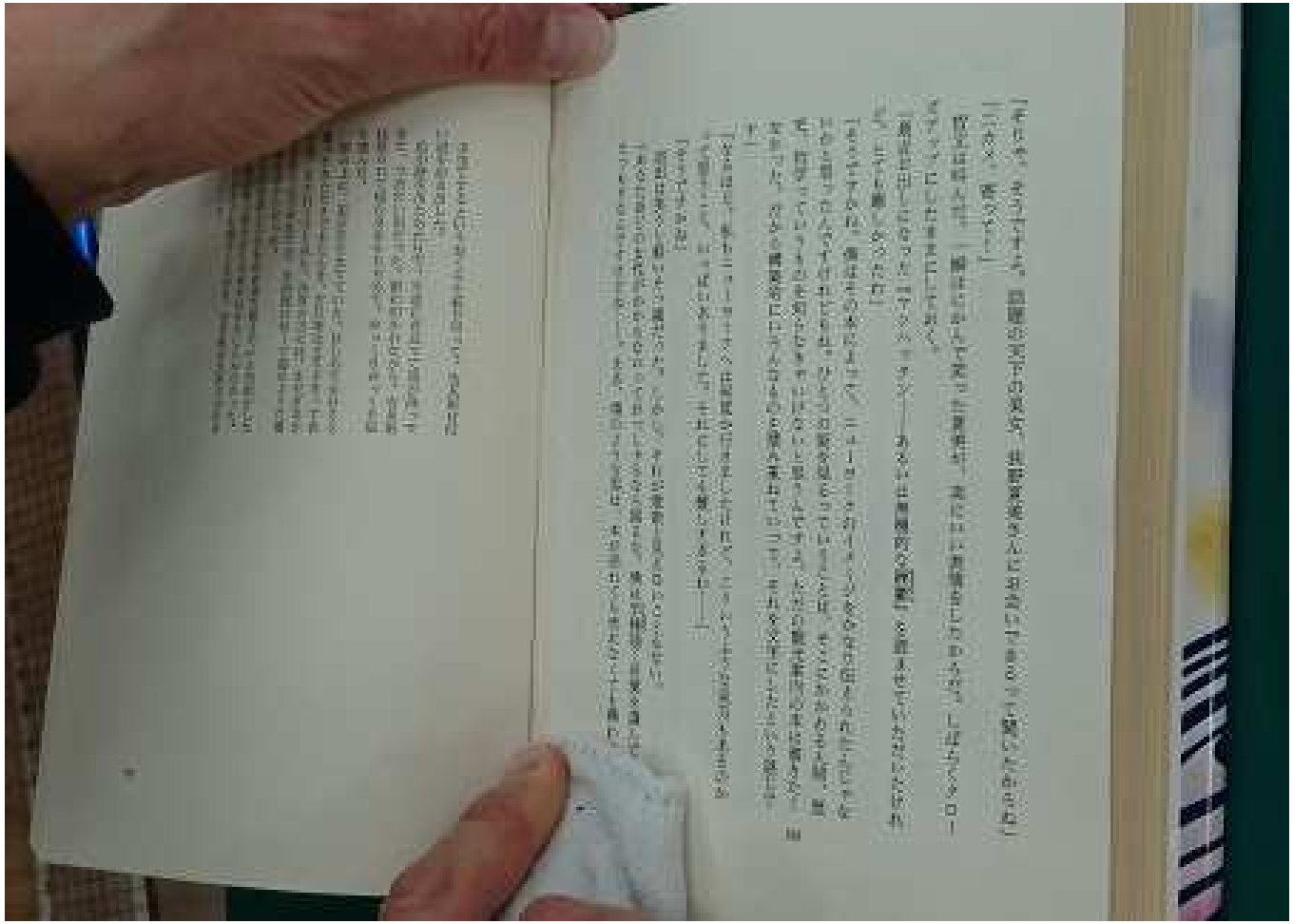
のど側部分を真っ直ぐに整える。

ページはずれ　１枚だけはずれた場合



捨て紙をのど側から1～2㎜のところにあて、糊（中濃度）を塗る。
定規で抑えると、捨て紙がずれにくくなる。

ページはずれ　１枚だけはずれた場合



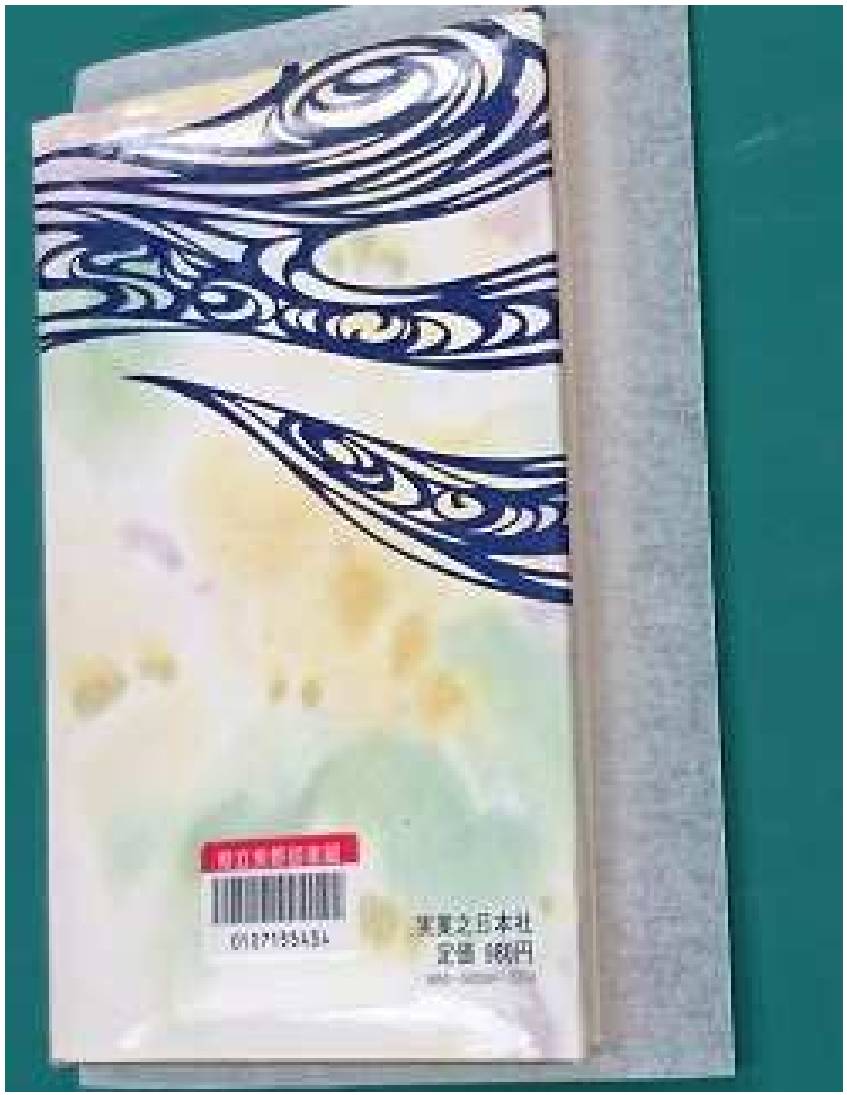
前のページの天地に合わせ、のどから少し離れたあたりにページを差し込む。

上から、固く絞った濡れタオルで軽く押さえる。

ページはずれ　１枚だけはずれた場合

接着箇所にクッキングシートをあて、乾いたタオルで擦り、糊をなじませる。

ページはずれ　１枚だけはずれた場合

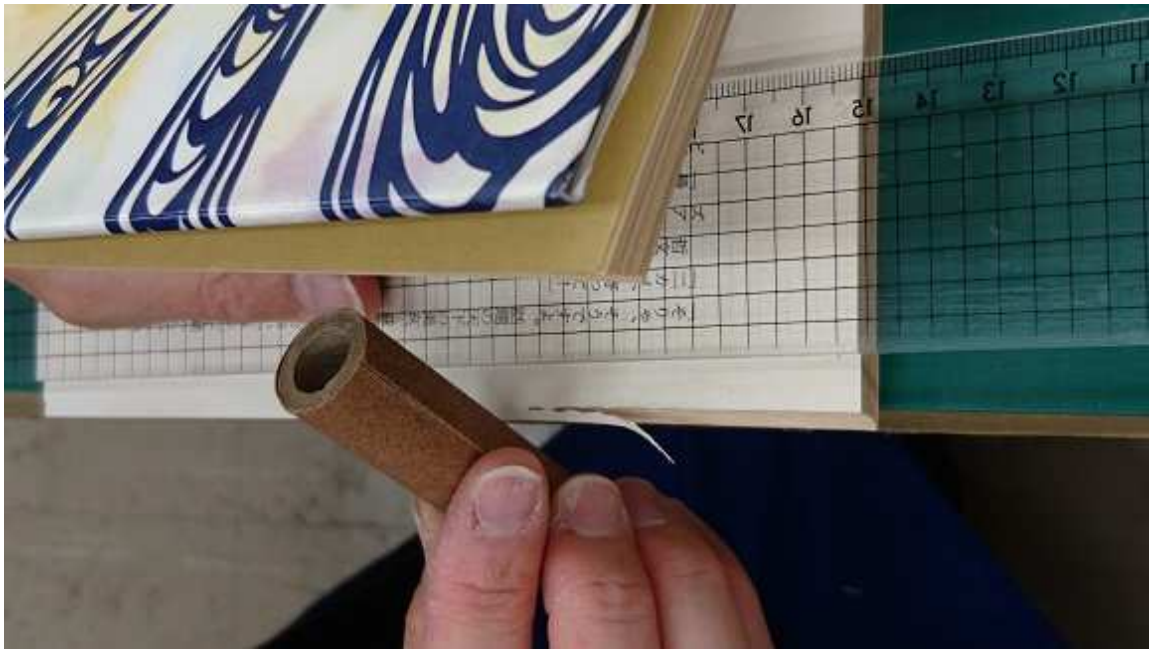


糊が反対側のページにつかないように、クッキングシートなどを挟む。

ページはずれ　１枚だけはずれた場合

重石をかけたまま乾かす

ページはずれ　１枚だけはずれた場合



糊が乾いたら、小口からはみ出したページを
筒状のヤスリでこそげ落とす。なめらかな仕上がりになる。

※表紙やブックコートを傷つけないように注意する。

（カッティングマットをはさみ、カッターで切り落としてもよい。）

ページはずれ　１丁だけはずれた場合

1. はずれた「丁」の糊付けがしっかりしていることを確認する。ばらけそうなら、糊付け（中濃度）をする。
2. 「のど」側から１～２ｍｍに、糊（1:1）を塗る。
3. 天地がはみ出さないように、はずれた個所にページを差 し込む。
4. スケッパーで本の「のど」までぐっと押し込む。
5. 上からこすって糊を定着させる。
6. 締め板で本を挟み乾くまで重石を載せておく。
7. はみ出したページを筒状のヤスリでこそげ落とす。

※表紙やブックコートを傷つけないように注意する。

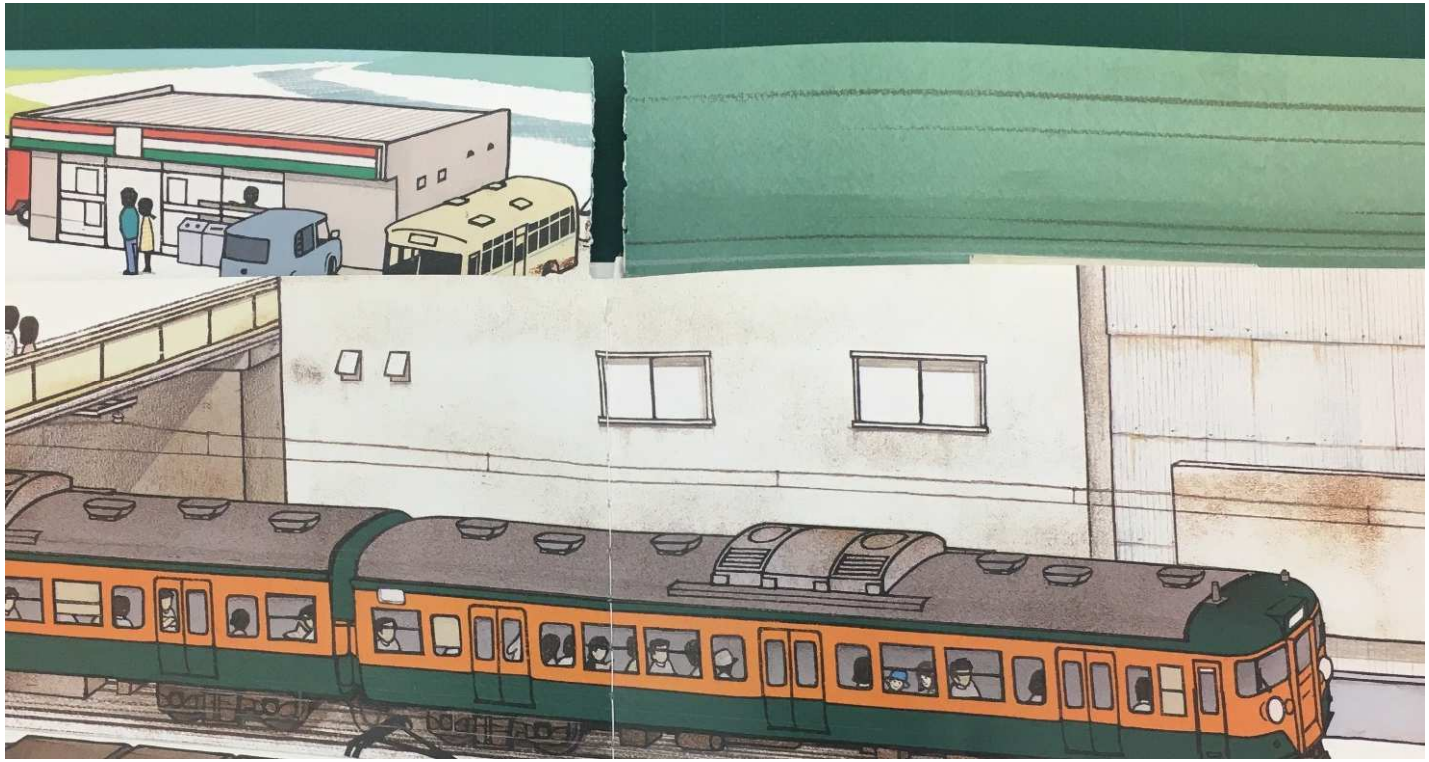
ページはずれ 綴じ糸がしっかりしている場合　1

1. 天地の長さ＋数ミリ、幅15㎜程度のタテ目の喰い裂き2枚を用意する。
2. はずれたページの反対側（本来同じ紙のページ）もはずす。
3. 「のど」部分をカッターできれいに整える。
4. 捨て紙の上に外れたページの「のど」側を捨て紙ではさみ、糊しろ部分（5㎜程度）をあける。
5. 糊しろにでんぷん糊（中濃度）を塗り、クッキングシートにのせるて、和紙を貼付する。クッキングシートをのせ、上からへらでこする。
6. 締め板にはさみ、重石を載せて乾かす。

ページはずれ 綴じ糸がしっかりしている場合　2

7. 乾いたら和紙のはみ出た部分を切り落とす。
8. 和紙が接着していない面を上にして捨て紙ではさみ、ページからはみ出している和紙部分に糊（中濃度）を塗る。
9. 本文の小口の角を合わせ、定規などで、ページを差し込む。
10. 接着面にクッキングシートをのせ、へらなどで慎重に和紙をなじませる。
11. クッキングシートはそのままにして本を閉じ、締め板に挟んで重石をのせ、ゆがみなどを整える。

ページはずれ 綴じ糸がしっかりしている場合



天地の長さ＋数ミリ、幅15㎜程度のタテ目の喰い裂き2枚を用意する。

はずれたページの反対側（本来同じ紙のページ）もはずす。

「のど」部分をカッターできれいに整える。

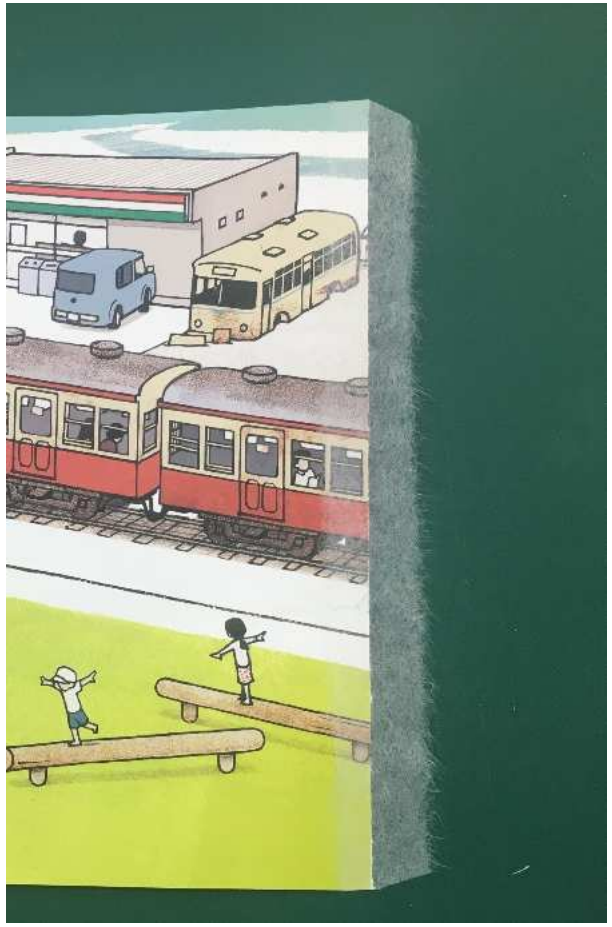
捨て紙の上に外れたページの「のど」側を捨て紙ではさみ、糊しろ部分（5㎜程度）をあける。

糊しろにでんぷん糊（中濃度）を塗り、クッキングシートにのせて、和紙を貼付する。

クッキングシートをのせ、上からへらでこする。

締め板にはさみ、重石を載せて乾かす。

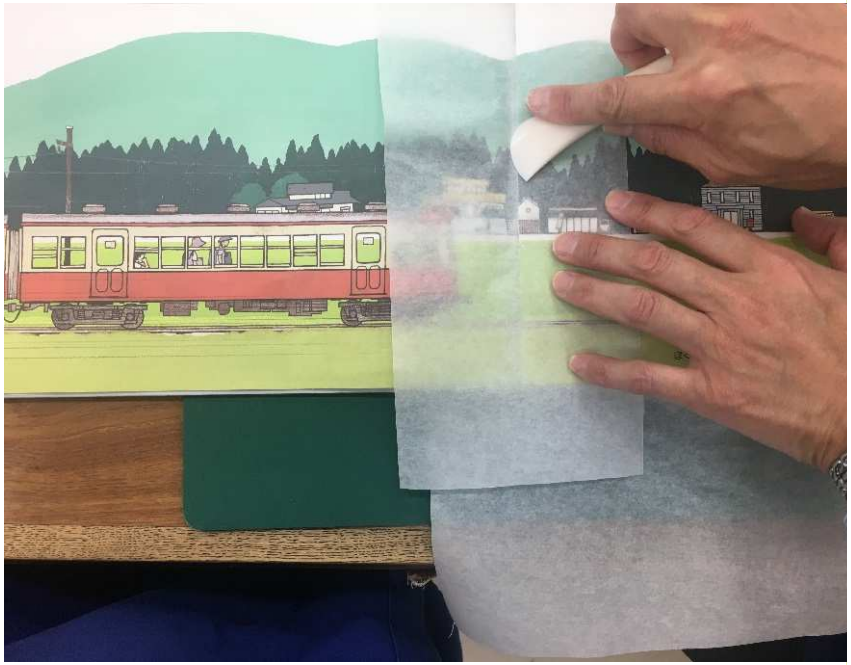
ページはずれ 綴じ糸がしっかりしている場合



乾いたら和紙のはみ出た部分を切り落とす。

和紙が接着している面を上にして捨て紙ではさみ、ページからはみ出している和紙部分に糊を塗る。

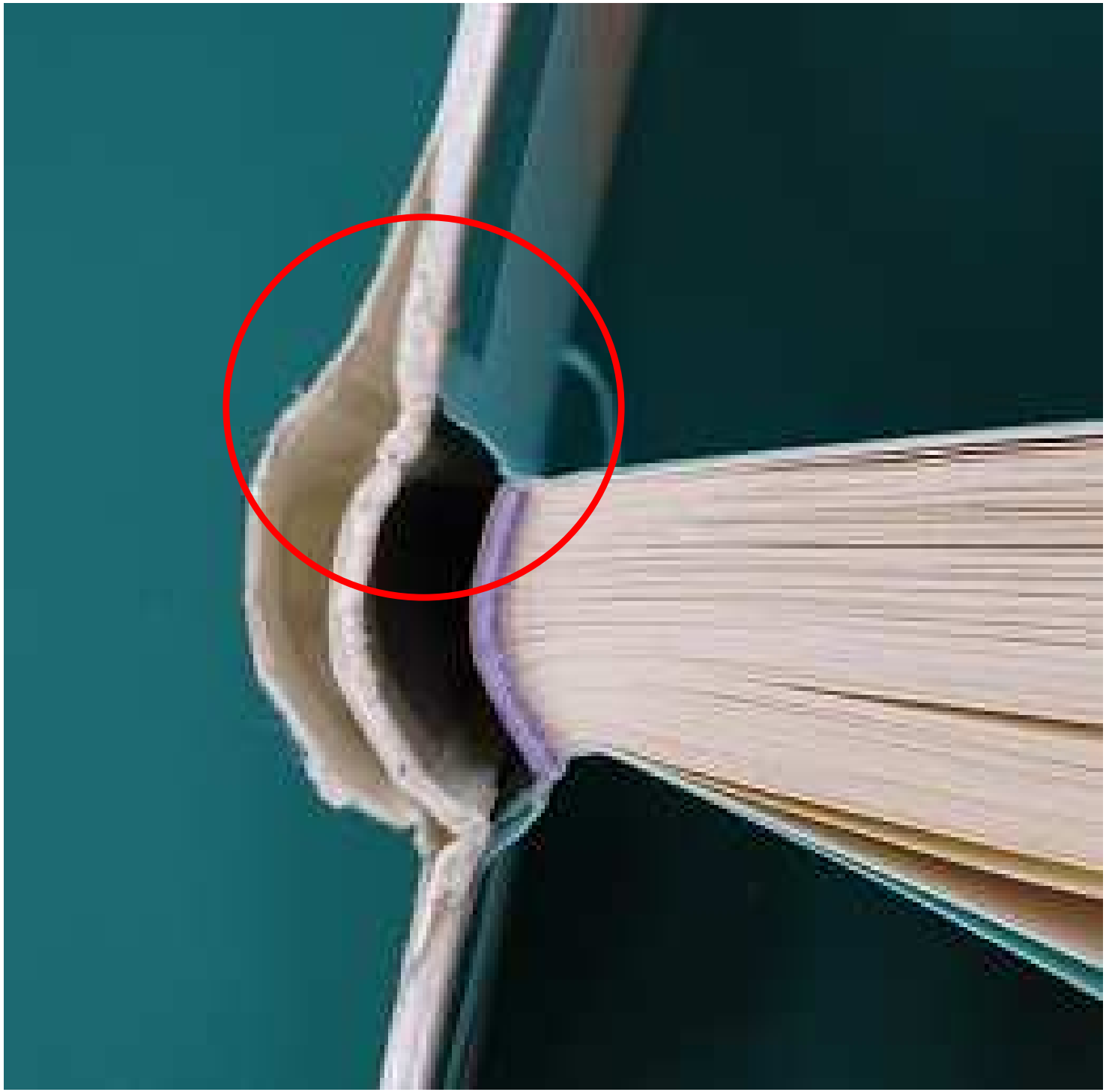
ページはずれ 綴じ糸がしっかりしている場合



本文の小口の角を合わせ、定規などで、ページを差し込む。
接着面にクッキングシートをのせ、へらなどで慎重に和紙をなじませる。
クッキングシートはそのままにして本を閉じ、締め板に挟んで重石をのせ、ゆがみなどを整える。

のどの緩み

1. 編み棒や竹串などに濃い糊を塗る。
2. のど が緩んだ部分に、棒を回転させながら糊を塗る。
3. 本を開いて、見返しに糊をなじませる。
4. 見返し側から定規を使い、のどをしっかりと押し込む。
5. 本を閉じ、糊のついていない編み棒を溝に載せ、締め板で挟み、乾くまで重石を載せる。
6. 天地から糊がはみ出していたら、ふき取る。
7. 厚い本の場合は、クータを背に差し込むと、さらに補強されて歪みにくくなる。



主な道具

のどの緩み

編み棒や竹串などに濃い糊を塗る

のどの緩み

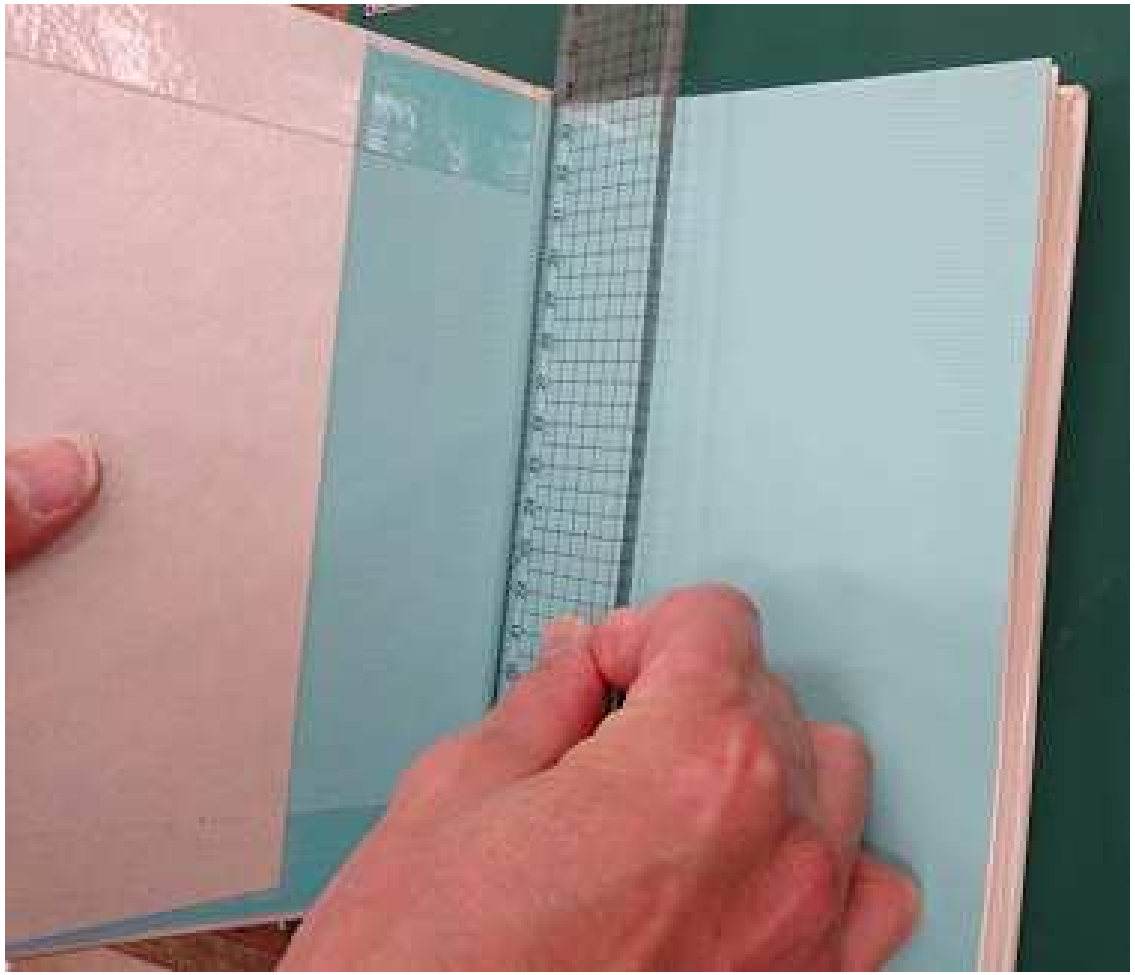
のど(溝)部分に、糊の付いた棒を回しながら差し入れる。
背に、糊が付着しないように気を付ける。

のどの緩み

見返し側から乾いたタオルで擦り、糊をなじませる。

はみ出した糊があれば、ふき取る。

のどの緩み



表紙を少し持ち上げるようにして、定規を使って溝に向かって、見返しを押し込む。

のどの緩み

ブックコートがかかった本の場合は、ジャケットの下から溝に棒を差し込み、しっかりと糊付けする。

のどの緩み

締め板で挟み乾くまで重石をかける

のどの緩み

重石と編み棒によって、のど部分が締まるので余分な糊がはみ出す。
これをきれいに拭きとる。

背の壊れ　クータを作ってみよう

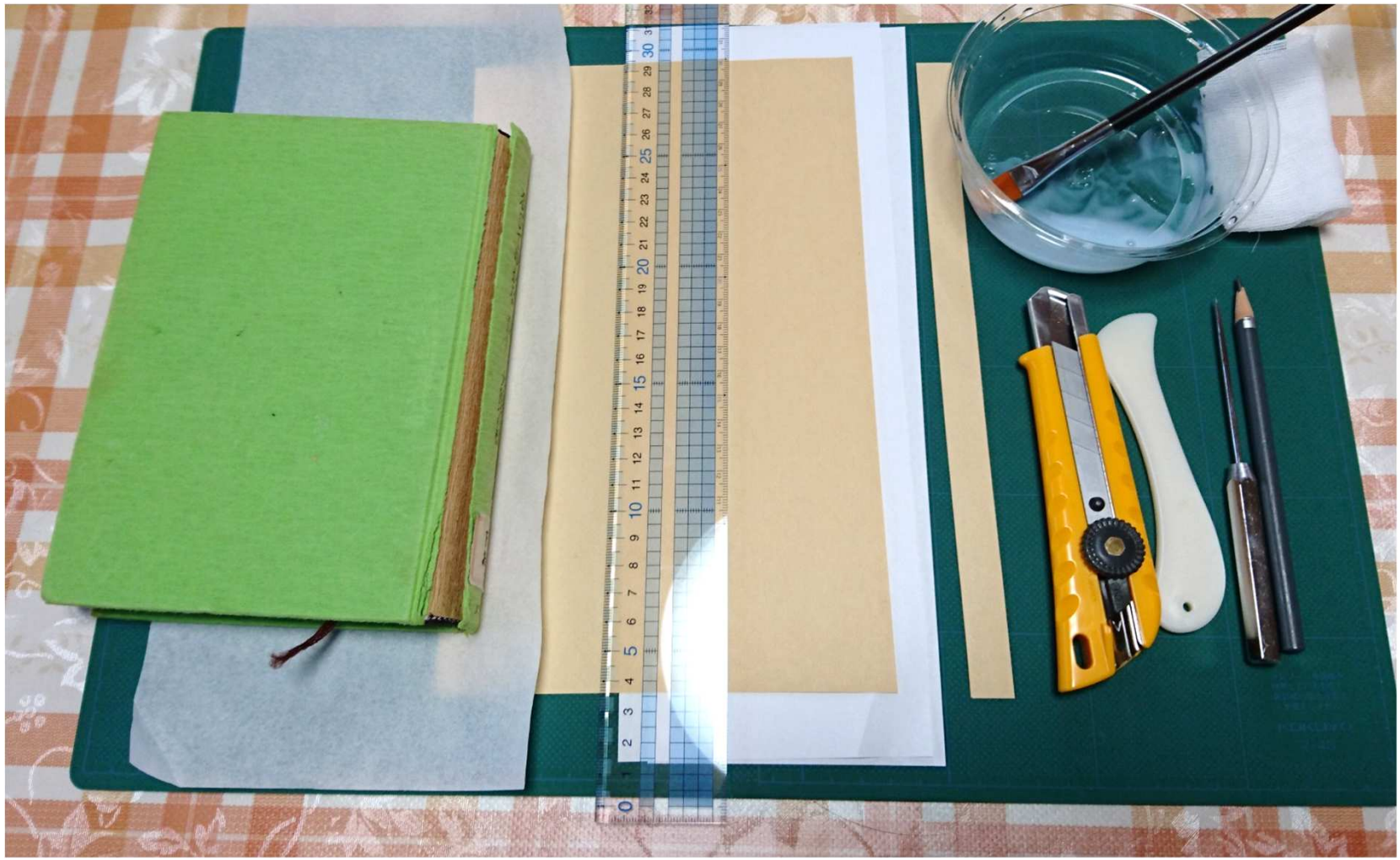
クータ「空太」とは

- 背幅に合わせて折った筒状の紙のこと。
- 本の開閉を妨げず、表紙と中身の接続を補強することができる。
- 背の壊れ、表紙はずれを補修する際に、よく使う。
- ソフトカバーでも、クータを使い補修して、ホローバックにすることがある。

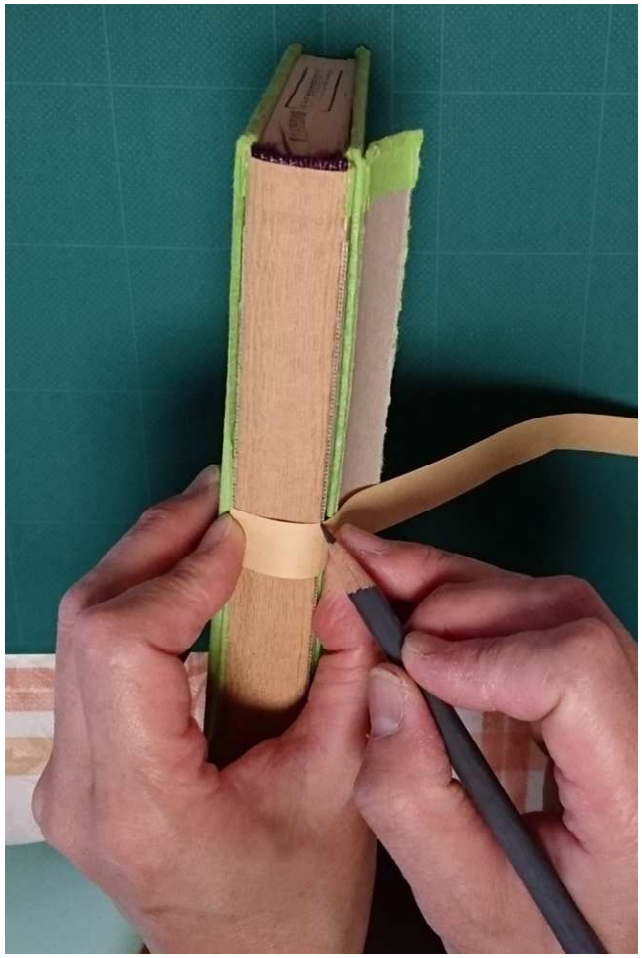
背の壊れ　クータを作ってみよう

1. 紙の帯で壊れた背の中身の背幅を測る。
2. クラフト紙に背幅の印をつけ、定規をあてへらまたは、目打ちで折り目をつける。
3. 折り目に沿ってクラフト紙を折り、その先に定規をあて、再び折り目を付け、折り込む。
4. さらに背幅以下の糊しろとなる幅で、定規をあてカッターでクラフト紙を切る。
5. 糊しろ部分に糊（中濃度）を塗り、三つ折りにして筒（クータ）にする。
6. 中身の天地の長さより少し短めにクータを切る。
7. クータの一重の側に濃い糊を塗り、中身の背に貼る。へらなどでしっかりつける。
8. 表紙の背をしっかりと糊付けする。

背の壊れ　クータを作ってみよう

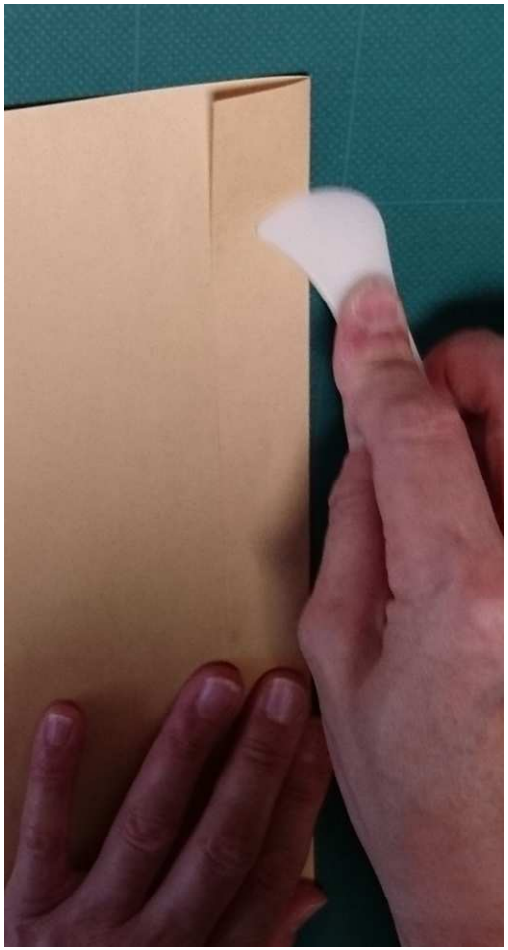


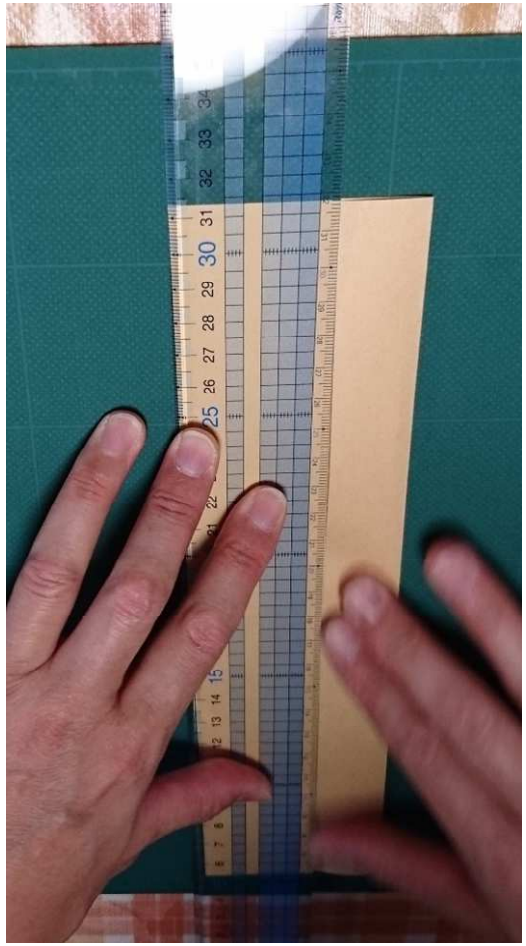
背の壊れ　クータを作ってみよう



背幅を測り、クラフト紙に背幅の印をつける。

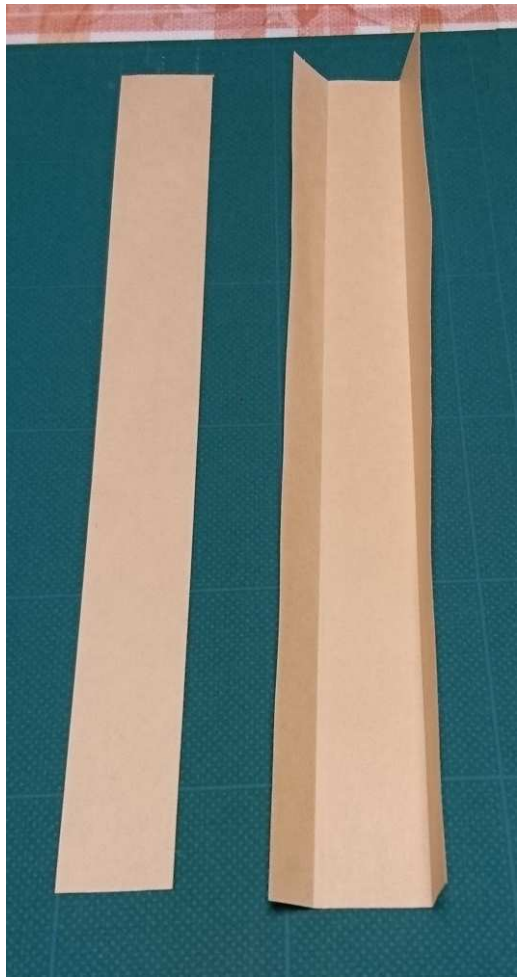
背の壊れ　クータを作ってみよう

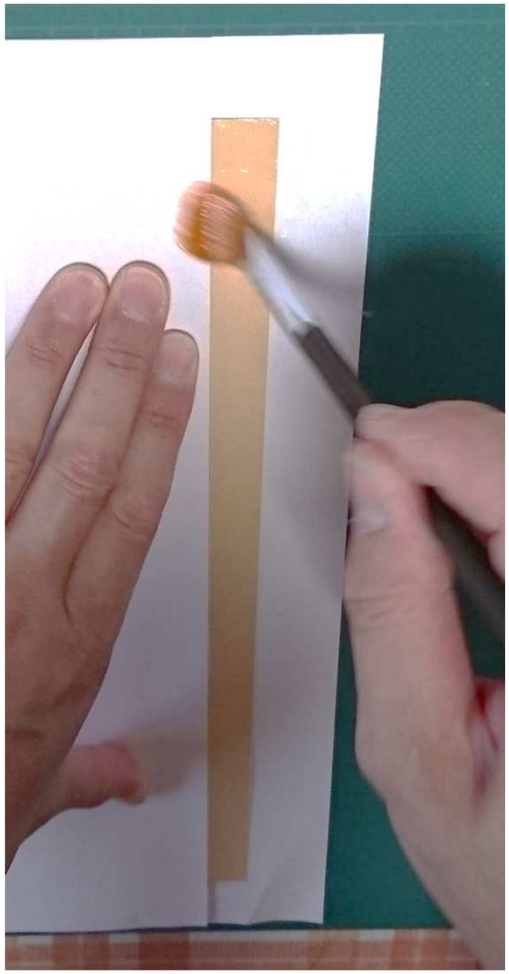




折り目に沿ってクラフト紙を折り、その先に定規をあて、
再び折り目を付け、折り込む。

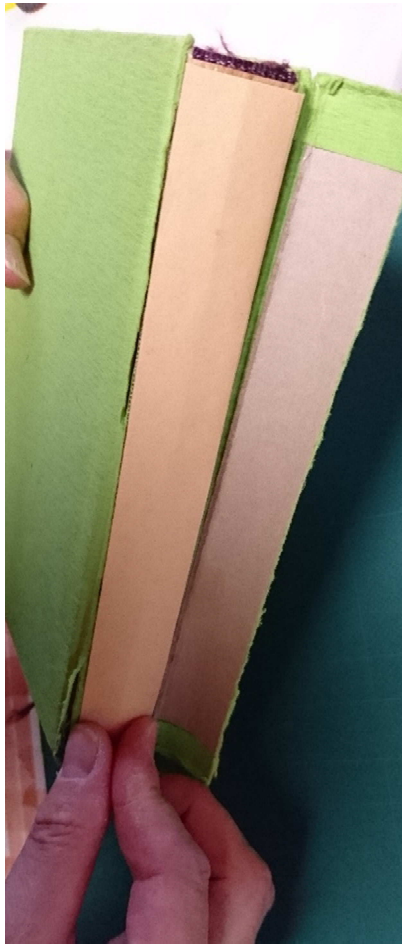
背の壊れ　クータを作ってみよう

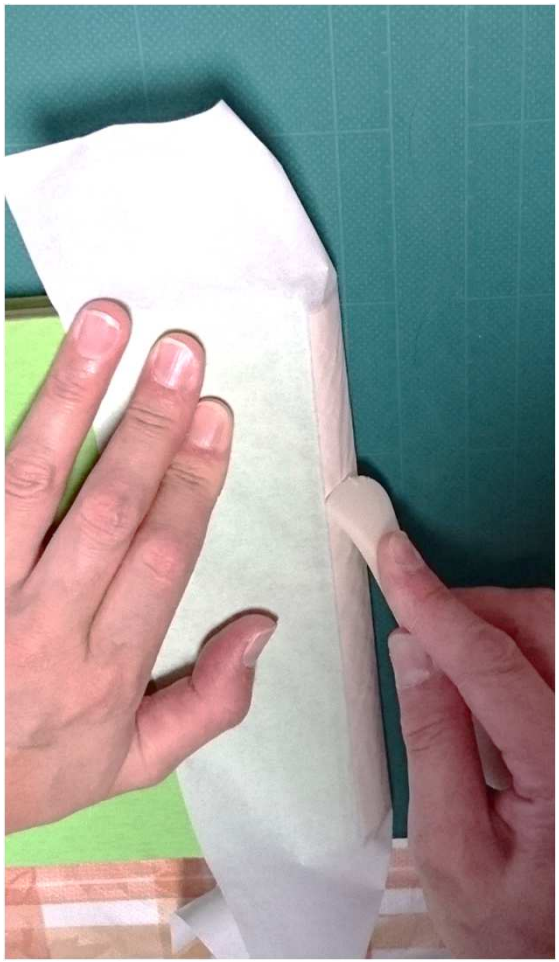




糊しろをとり、クラフト紙を切り取る。三つ折りで糊付け（中濃度）し筒状にする。

背の壊れ　クータを作ってみよう





中身の天地に合わせてクータを切り、クータの一重の側に濃い糊を塗り、
中身の背に貼る。
上かへらでしっかりと貼り付ける。さらに、表紙の背を貼る。

折丁１つ本の綴じ直し（中級）

1. 糸綴じの穴を和紙で修復する。
2. 切れているページがあれば、和紙を使って補修する。
3. 見返しの様子を確認し、見返しの残し方を決める。
4. 天地の長さの寒冷紗を用意する。
5. 寒冷紗（きき紙となる見返しも含めて）丁全部を糸綴じする
6. 寒冷紗（きき紙）を表紙に貼り、表紙と中身を接着する。
7. 本を閉じ、締め板で挟み、乾くまで重石を載せる。
8. 天地から糊がはみ出していたら、ふき取る。
9. 乾いたら見返しの様子を確認し、必要な場合は「のど」を厚めの和紙で補強する。

折丁１つ本の綴じ直し（中級）

折丁１つ本の綴じ直し（中級）

糊は中濃度

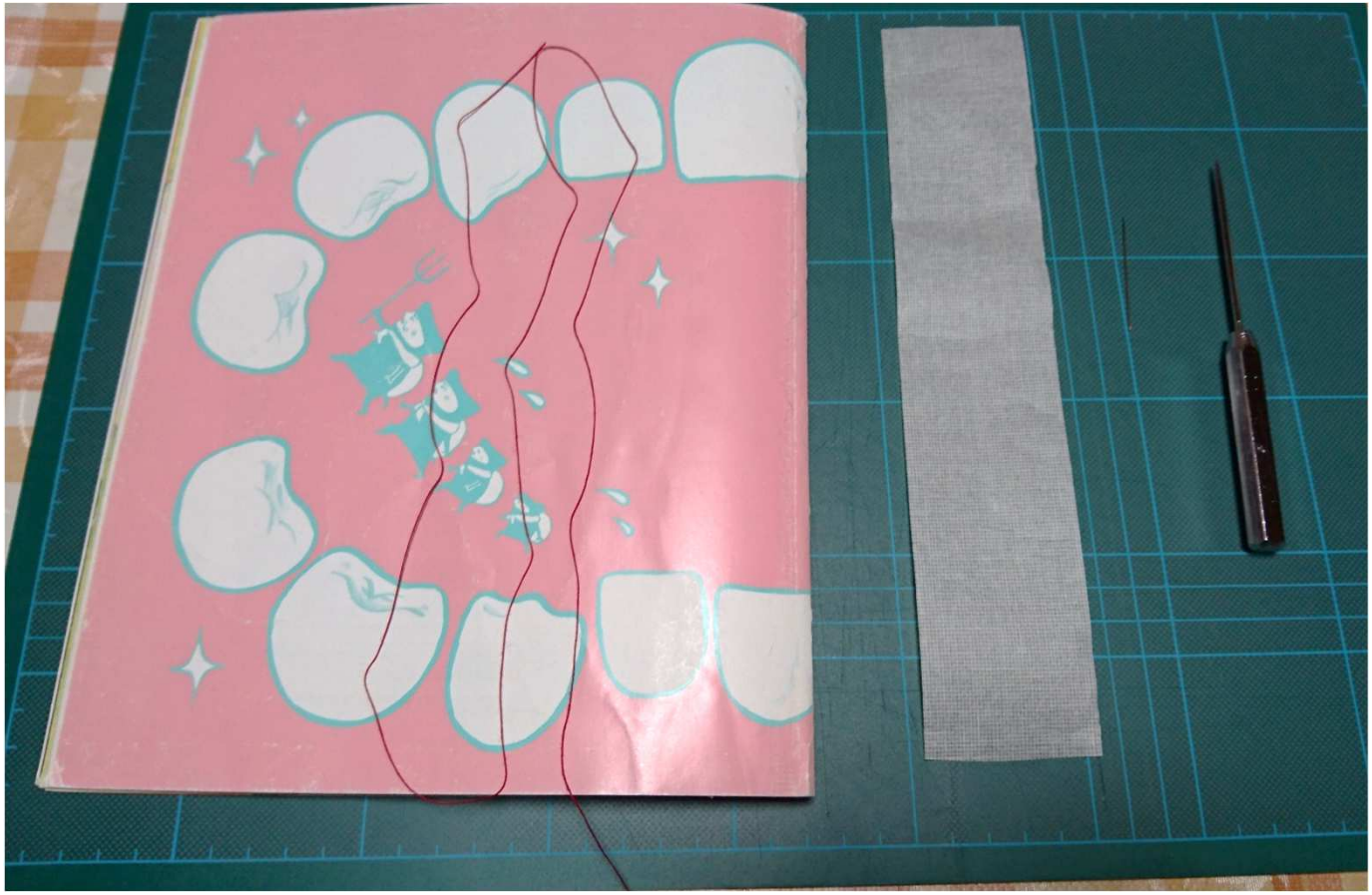
糸綴じの穴を和紙で修復する。

切れているページがあれば、和紙を使って補修する。

折丁１つ本の綴じ直し（中級）

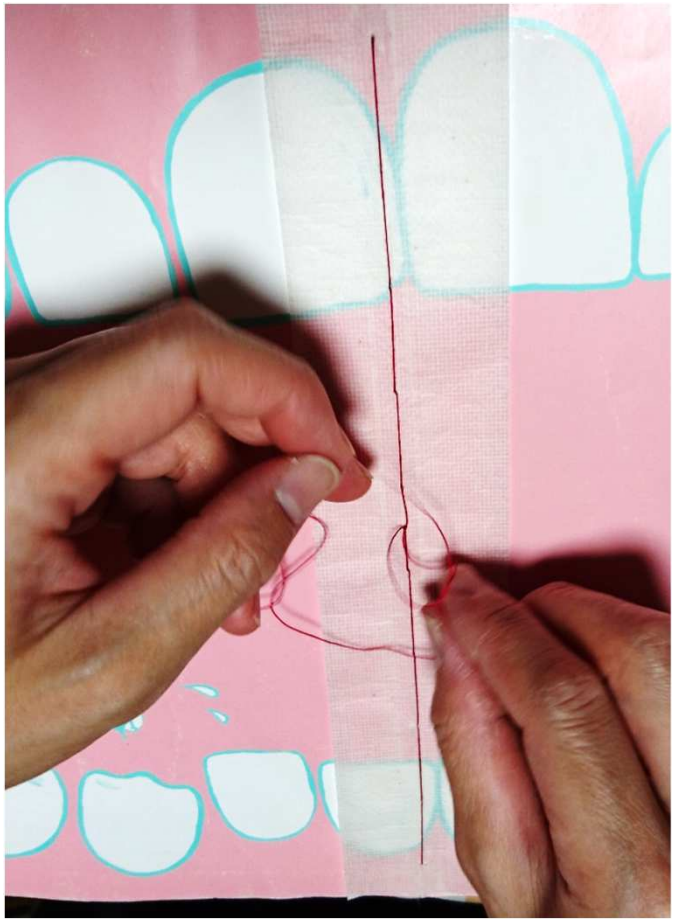
見返しの様子を確認し、見返しの残し方を決める。

折丁１つ本の綴じ直し（中級）



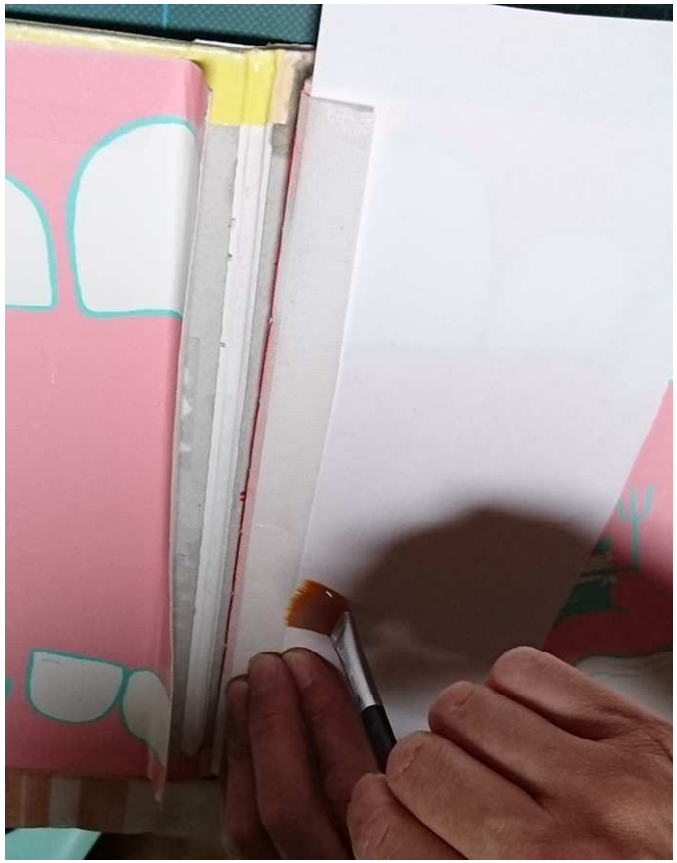
天地の長さの寒冷紗、綴じ穴をあける目打ち、綴じ糸（天地の長さの2.5倍）、針を用意する。（糸の色は中央のページの色に合わせる）

折丁１つ本の綴じ直し（中級）



寒冷紗（きき紙となる見返しも含めて）丁全部を糸綴じする。

折丁１つ本の綴じ直し（中級）

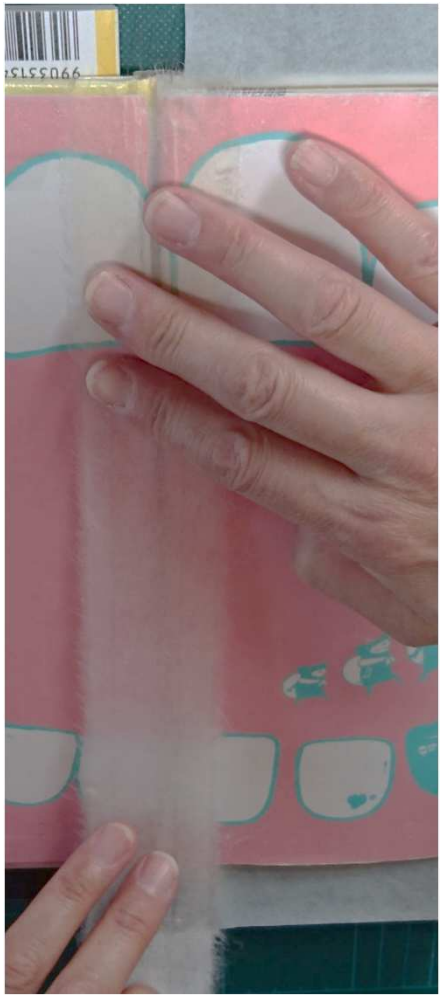


寒冷紗（きき紙）を表紙に貼り（寒冷紗には濃い糊、きき紙へは中濃度）、表紙と中身を接着する。

本を閉じ、締め板で挟み、乾くまで重石を載せる。

天地から糊がはみ出していたら、ふき取る。

折丁１つ本の綴じ直し（中級）



乾いたら見返しの様子を確認し、必要な場合は「のど」を厚めの和紙で補強する。

本日の技術のまとめ

本日の考え方のまとめ

どう利用したいのか

- 捨てる勇気
- 本物が必要！　本物でなくても・・・！

いつまで使うのか

- 人にも本にも優しい修理
- どこに力点を置くか?

参考資料

- 東京都立図書館：資料保存のページ
  http://www.library.metro.tokyo.jp/about_us/syusyu_hozon/siryou_hozon/tabid/2104/Default.aspx
- 国立国会図書館HP：資料の保存
  http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation/index.html
- 日本図書館協会：資料保存委員会
  http://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/96/Default.aspx
- 『防ぐ技術・治す技術
  ―紙資料保存マニュアル―』日本図書館協会　2005
- 『図書の修理とらの巻』
  書物の歴史と保存修復に関する研究会編　澪標　2017

- 『手製本レッスン』スタジオタッククリエイティブ 2012

その本を何年利用しますか？

使用期間 壊れの種類	数ヶ月	２～3年	１０～20年	永　　年 自館修理	 自館修理しない
ページ破れ	テープ	補修用テープ	補修用テープ 和紙	和紙	外部発注 デジタル化 保存箱 保存袋
ページ取れ	テープ	糊入れ 補修用テープ	糊入れ 補修用テープ／和紙	糊入れ 和紙	
のどの緩み	–	糊入れ	糊入れ	糊入れ	
背の壊れ	–	クータ	クータ および 寒冷紗	クータ および 寒冷紗	
糸綴じの緩み	–	糊止め	糊止め	締め直して 糊止め	
綴じの壊れ	–	廃棄	無線綴じ 平綴じ 買い替え 廃棄	無線綴じ 平綴じ・糸綴じ 箱入れ	
汚損	–	クリーニング 廃棄	クリーニング 買い替え 書庫保存のち廃棄	クリーニング 買い替え 書庫保存	